

1 計画の目標

- (1) 将来にわたり地域において必要となる医療を安定的かつ継続的に提供する
- (2) 病院事業全体で早期の経常黒字化を目指す（平成26年2月策定時）
⇒ 病院事業全体での経常黒字を継続する（平成28年2月改定）

2 重点取組項目の成果と今後に向けての課題

(1) 医療機能の充実

	成果	今後に向けての課題
あき	<ul style="list-style-type: none"> ○常勤麻酔科医等の確保による救急患者の受入・手術体制の充実・強化 ○病院機能評価の取得 	<ul style="list-style-type: none"> ○急性期病院としての医療機能の更なる充実 ○地域がん診療病院の指定に向けた診療機能の強化
幡多	<ul style="list-style-type: none"> ○地域がん診療連携拠点病院の指定更新 ○地域連携パスの活用などによる医療機関等との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○がん診療機能の更なる充実・強化 ○地域医療支援病院の指定に向けた機能の充実
共通	<ul style="list-style-type: none"> ○医療ソーシャルワーカーの増員など地域連携の強化に向けた院内体制の充実 ○接遇の向上に向けた職員研修や委託事業者への定期検査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた機能の充実・強化 ○患者満足度の向上に向けた取組の継続・強化

(2) 経営基盤の強化

	成果	今後に向けての課題
共通	<ul style="list-style-type: none"> ○経営管理体制の改善及び事務組織の再編・見直し ○ジェネリックへの切替促進や薬品の値引交渉等による材料費の低減 ○遊休資産の売却 	<ul style="list-style-type: none"> ○的確な経営分析を行うための体制整備 ○質の高い医療の提供に向けたDPCデータの活用 ○材料費の適正管理 ○未収金の縮減

(3) 医師をはじめとする医療スタッフの確保

	成果	今後に向けての課題
共通	<ul style="list-style-type: none"> ○高知大学医学部への訪問や健康政策部・高知医療再生機構等との連携による医師の確保 ○採用年齢の引上げや就職説明会への参加等による医師以外の医療スタッフの確保 ○業務補助者の採用による医療スタッフの身体的負担の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ○医療機能の更なる充実・強化に向けた医師の安定確保 ○助産師等の必要な医療スタッフの安定確保 ○医師事務作業補助者や看護補助者等の適正配置

(4) 人材の育成

	成果	今後に向けての課題
共通	<ul style="list-style-type: none"> ○基幹型臨床研修病院の指定(あき) ○高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラムの開始 ○公費負担による有資格者の養成 	<ul style="list-style-type: none"> ○医師の養成・育成に向けた取組の強化 ○医師以外の医療スタッフの専門性の向上 ○プロパー事務職員の専門性の向上

(5) 南海トラフ地震対策の充実・強化

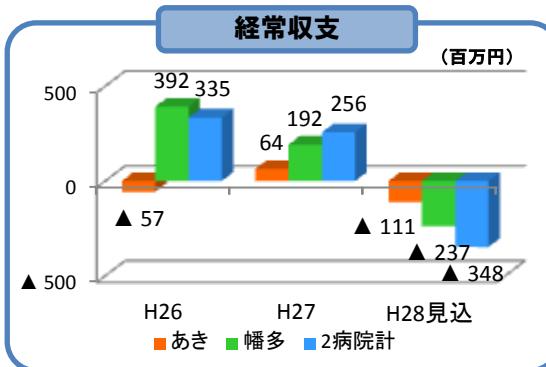
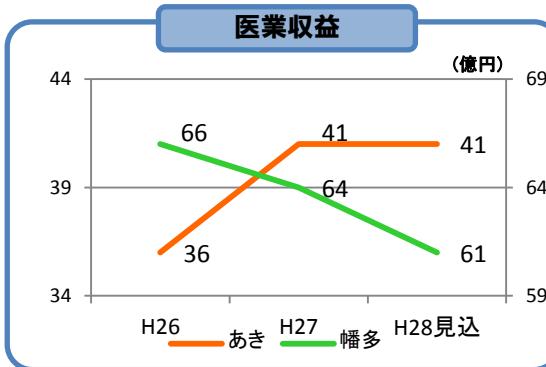
	成果	今後に向けての課題
共通	<ul style="list-style-type: none"> ○業務継続計画(BCP)の策定 ○災害時備蓄の拡充(燃料・水源等の確保) ○DMATの体制の充実 ○診療情報の県外バックアップ体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○業務継続計画(BCP)の実効性担保 ○災害訓練等の充実・強化

3 収支計画の達成状況（2病院計）

(単位:百万円)

	H26		H27		H28	
	計画	実績	計画	実績	計画	見込
収益合計	13,211	14,437	13,509	13,865	13,817	13,339
医業収益	10,395	10,184	10,651	10,435	10,647	10,179
医業外収益	2,625	3,079	2,751	3,165	3,170	3,158
特別利益	191	1,175	107	265	0	2
費用合計	19,088	17,783	14,382	14,210	13,878	13,763
医業費用	13,248	12,159	12,958	12,490	13,070	12,939
医業外費用	827	768	871	853	729	746
特別損失	△ 5,013	4,856	△ 553	867	79	△ 79
経常収支	△ 1,055	△ 335	△ 427	△ 256	△ 18	△ 348
単年度損益	5,877	3,346	873	345	61	424
収益的資金収支	190	878	212	779	531	226

注)項目ごとに端数処理しているため、合計が一致しないことがある。



4 各病院の収支及び指標の達成状況

(1) あき総合病院

(単位:百万円)

	H26	H27	H28
	実績	実績	見込
収益合計	6,157	5,595	5,585
医業収益	3,628	4,065	4,061
医業外収益	1,369	1,476	1,523
特別利益	1,160	54	1
費用合計	8,538	5,512	5,720
医業費用	4,770	5,151	5,399
医業外費用	284	325	296
特別損失	△ 3,484	36	△ 25
経常収支	57	64	111
単年度損益	2,381	83	135
収益的資金収支	211	312	140

注)項目ごとに端数処理しているため、合計が一致しないことがある。

	単位	H26	H27	H28		
				12月末		
診療機能	救急車受入件数	件	1,683	1,679	1,295	
	手術件数	件	806	823	670	
	新入院患者数	人	2,977	3,357	2,354	
	紹介患者数	人	1,552	1,967	1,452	
	逆紹介患者数	人	2,554	2,758	2,021	
経営指標	経常収支比率	%	98.9	101.2	—	
	一般	1日平均入院患者数	人	143.1	149.7	149.1
	病床利用率(稼働)	%	81.3	85.4	84.7	
	入院診療単価	円	37,562	40,313	40,899	
	精神	1日平均入院患者数	人	79.7	79.4	76.8
病床利用率(稼働)	%	88.5	88.2	85.4		
入院診療単価	円	14,826	15,140	15,321		

(2) 幡多けんみん病院

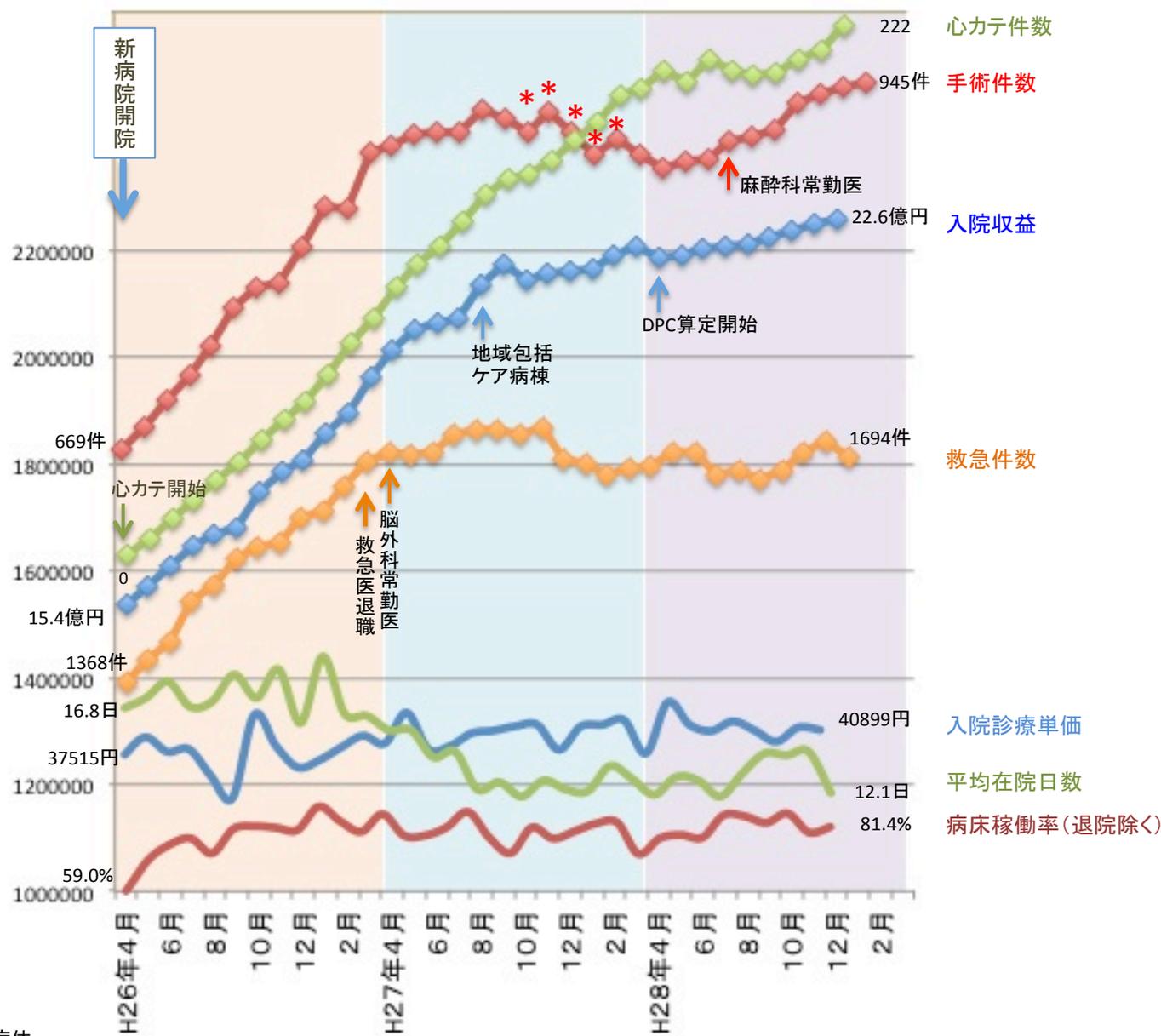
(単位:百万円)

	H26	H27	H28
	実績	実績	見込
収益合計	8,280	8,270	7,754
医業収益	6,556	6,370	6,118
医業外収益	1,710	1,689	1,635
特別利益	15	212	1
費用合計	9,245	8,698	8,043
医業費用	7,389	7,339	7,540
医業外費用	484	528	△ 450
特別損失	△ 1,372	831	△ 53
経常収支	392	192	237
単年度損益	965	428	289
収益的資金収支	667	466	86

注)項目ごとに端数処理しているため、合計が一致しないことがある。

	単位	H26	H27	H28	
				12月末	
診療機能	紹介患者数	人	3,266	3,202	2,363
	逆紹介患者数	人	6,536	6,570	4,757
	紹介率	%	29.7	30.8	30.7
	逆紹介率	%	59.5	63.1	61.9
経営指標	新入院患者数	人	6,324	6,124	4,219
	経常収支比率	%	105.0	102.4	—
	1日平均入院患者数	人	241.3	230.9	219.2
	病床利用率(稼働)	%	77.3	73.9	70.2
入院診療単価	円	52,567	52,073	51,324	

■ あき総合病院 一般診療科入院収益の移動累計と各種指標の推移(新病院開院後)



H29年4月から

- 脳外科医2名体制
- 眼科医2名体制
- 放射線科医着任

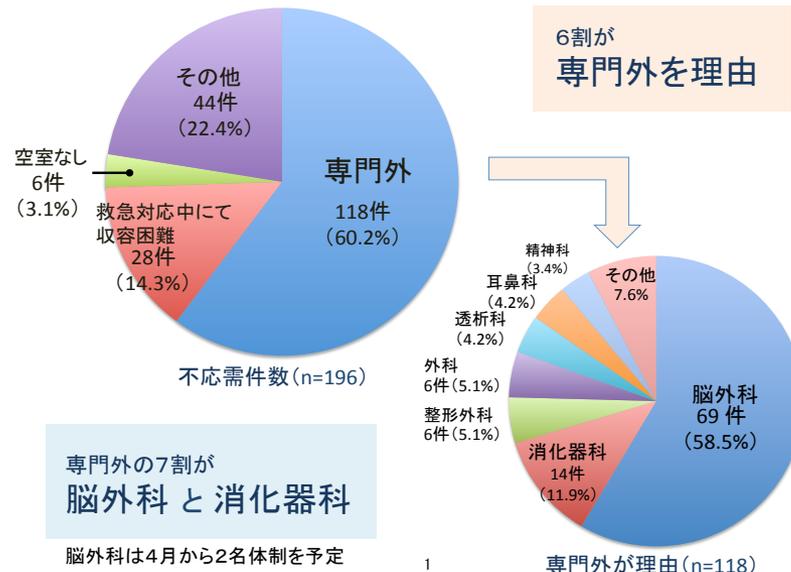
救急件数を増やす必要あり

* 医師病休

■ 安芸医療圏内(安芸・中芸・室戸消防管内)救急搬送件数推移



■ 救急不応需の理由 (平成28年1月~12月 あき総合病院 n=196)



あき総合病院 DPC機能評価係数II (DPCIII群)

項目	H28年度		H29年度	
	自院係数	偏差値	自院係数	偏差値
保険診療係数	0.00806	52.0	0.00806	51.4
効率性係数	0.00749	50.7	0.01012	58.4
複雑性係数	0.00911	52.2	0.00848	50.5
カバー率係数	0.00351	42.9	0.00315	41.8
救急医療係数	0.00982	54.0	0.01094	56.7
地域医療係数	0.01478	67.8	0.01450	66.7
体制評価係数	0.0047	60.1	0.00485	60.3
	0.00465	64.2	0.00448	63.4
	0.00543	71.3	0.00517	70.0
後発医薬品係数	0.00816	50.1	0.00949	54.6
重症度係数	0.0097	50.5	0.01386	63.9
合計	0.0706	59.2	0.0786	65.9

救急医療係数
後発医薬品係数
などがアップ

偏差値65は
上位7%圏内

あき総合病院年度別病院目標

年度	目標
2014年	新病院開院、電子カルテ運用開始 心臓カテーテル検査開始
2015年	脳外科診療開始、地域包括ケア病棟、 病院機能評価受審
2016年	基幹型初期臨床研修開始 DPC算定開始、手術数アップ
2017年	他病院との連携 地域がん診療病院準備 電子カルテネットワーク準備

「第5期経営健全化計画の取組状況」【あき総合病院】

資料1-2

H27年度 第5期経営健全化計 画重点取組項目	課題	目標値					No.	具体的な取組内容	達成状況	H28年度 第3四半期評価				コメント	達成状況		
		業績評価指標	H25年度 (実績)	H26年度 (実績)	H27年度 (実績)	H28年度 (計画)				評価	計画 達成	進捗状況				評価 保留	
												計画以上	計画通り				遅延
(1)医療の質的 向上	①救急患者受入体 制の充実	救急車受入件数	1,350	1,683	1,679	1,440	1	救急に必要な医師の確保を図る【継続】	H26.4 循環器内科常勤医師着任			○					
		東部3消防本部管外 搬送割合(暦年)	29.8%	25.3%	30.3%	—	2	消防本部との連携を充実する【継続】	救急画像カンファレンスの開催(月1回)			○					
	②手術体制の充実	手術件数	641	806	823	1,176	3	常勤麻酔医を確保し、毎日、手術が可能な体制を整える	H28.7 麻酔科常勤医師着任			○					
	③がん(悪性新生 物)診療体制の充実 <地域がん診療病院の 指定に向けた取り組み >	がん手術件数	56	58	60	—	4	地域がん診療病院の指定を目指した取り組みを進める(目標:最短H30年度) ⇒院内体制の整備を進め、最短でH30年度に指定を目指す	H28.9 相談員の要件であるがん対策情報セン ターの研修を2名受講。 H28.10 がん登録の専従者の要件であるがん 研究センターの研修終了。認定試験合格。 H28.12 高知大学医学部附属病院長に合同カ ン				○				
	④循環器疾患治療 の充実						5	循環器内科医を複数配置し、心臓カテーテル治療・検査や急性心筋梗塞の治療を実施できる体制を整える	H26.4 循環器内科常勤医師着任により2名体 制	○							
	⑥DPC病院へのH28 年度移行に向けた取 り組み						6	DPC病院として、DPCデータを遅滞なく毎月提出する【H28年度～】	4回/年、DPCデータを厚労省へ遅延なく提出してい る。 EVE(DPC分析システム)へ月1回オンラインでデータ 提出し、H27.10月から診断群分類研究支援機構へも4 回/年オンラインでデータ提出を開始している。				○				
							7	DPC制度に関する勉強会の実施【継続】	H28.6.28DPCコーディング委員会を開催。以降2ヶ月 に一度(H28.8.31、H28.11.30、H29.2月予定)委員会を 開催。				○				
							8	データ分析の精度向上(分析ソフトの導入、担当職員のスキルアップ(研修の実施等))【H26年度～】	H28.6.15回生病院(坂出市)で開催されたEVE操作説 明会に参加。H28.8.18～19東京で開催されるEVEシ ステム他病院事例発表会へ参加。 今後、各地域で開催される研修会、勉強会に積極的 に参加する予定。				○				
							9	ジェネリックへの切替の促進 ⇒大学病院の例も参考に、ジェネリックへの切替を進めていく【H26年度～】	後発品使用率算出可能なソフトを活用し、薬剤部と連 携し、後発品への切替の促進をしていく。 H27.2にMDV analyzer(薬剤分析システム)を導入 し、後発医薬品の切り替えを進めている。 H26年度→39.2%。 H27年度→70.7%。 H28.12月85.5%(H28.4～12月平均87.4%)				○				
						10	医療の標準化 ⇒院内クリニカルパスの整備【H26年度～】	業務改善委員会等で協議し、承認後運用開始してい る。H27.6月時点で2項目しか承認できていなかった が、H27.12月紙パスあわせて18項目作成済。H28.8 月に全職員対象の第1回パス大会を開催。第2回を H28.10月に開催し、第3回をH29.2月に開催予定。				○					
1 医療機 能の充 実	(3)地域連携の 推進	②地域の医療機関、 福祉介護施設との連 携強化	紹介患者数	1,532	1,552	1,967	1,699	13	医師会との意見交換会を開催【継続】 (H25年度開始) H25.8 安芸郡医師会との意見交換会開催					○			
			逆紹介患者数	2,587	2,554	2,759	2,873	14	医師会や行政等の会議に出席し、「顔の見える関係づくり」を行う【継続】 画像症例検討会の実施 H24年度:7回 H25年度:7回 H26年度:9回 H27年度:9回 H28年度:7回(12月末時点)	H26.7.18:地域連携懇談会 H27実績6回(24症例) 延べ125名参加(うち院外:33 名) H27.12.3 地域連携合同カンファレンス(あき総合病院 で福祉事務所と院長、的場Dr、地域連携管理室で 行った) H28.1.7:県医師会『高知県の医療を守る会』院長出席 H28.1.20:安芸市包括支援センターとの情報交換会 (地域連携、的場Dr) H28.10.27:在宅看取りに関する地域の医師との情報 あきぐんネットH26.10.20開始				○			
							15	地域連携システム(医療情報システム)の構築に向けた検討【H26年度～】				○					
(4)患者サービ スの向上	①接遇の向上						16	外部講師による接遇研修の実施【H26年度～】	H28年度予定なし				○				
							17	医事業務受託者の接遇チェックを実施【継続】 H24年度:年3回実施 総合評価:良 H25年度:年3回実施 総合評価:良 H26年度:年1回実施 総合評価:可 H27年度:年1回実施 総合評価:良 H28年度:年1回実施 総合評価:良	H29.1.6実施 H28年度:年1回実施 総合評価:良			○					
							18	総合案内体制の充実【H26年度～】	H26年度 ニチイ委託 常時1名配置				○				
							19	患者待ち時間調査の実施【継続】	患者満足度調査、H28.12.14、19の外来318人に実 施。30分以内49%(167人)、60分以内30%(114人)、90 分以内14%、120分以内14%、無回答2%。				○				

「第5期経営健全化計画の取組状況」【あき総合病院】

資料1-2

H27年度 第5期経営健全化計 画重点取組項目	課題	目標値					No.	具体的な取組内容	達成状況	H28年度 第3四半期評価				コメント	達成状況		
		業績評価指標	H25年度 (実績)	H26年度 (実績)	H27年度 (実績)	H28年度 (計画)				評価	計画 達成	進捗状況				評価 保留	
												計画以上	計画通り				遅延
	②給食メニューの改善						20	患者満足度調査(嗜好調査)の実施【継続】 H24年度:2回実施 満足度69% H25年度:2回実施 満足度71% H26年度:2回実施 満足度86% H27年度:2回実施 満足度65%	8月に身体科の並食を対象に実施、精神科は11月に実施。 身体科:満足度(満足、やや満足、普通)89% 精神科:満足度(満足、やや満足、普通)50%			○					
	③住民向け広報活動の充実						21	「ふれあい医療教室」の開催【継続】 H24年度:3回開催 平均参加人数65人 H25年度:3回開催 平均参加人数84人 H26年度:3回開催 平均参加人数148人 H27年度:3回開催 平均参加人数72人	H28.7.9 あき総合病院で開催 参加人数44人 10.15 室戸市で開催 参加人数67人			○					
							22	広報誌の充実 H24年度:3回発行 2,900部 H25年度:3回発行 4,500部 H26年度:3回発行 4,500部 H27年度:3回発行 4,500部	Vol13を11月に発行済み。Vol14を2月～3月に発行予定。			○			H28年度から広報誌作成を外部委託。例年、年3回発行ですが、外部委託のため、2回発行予定になっています。H29年度は3回発行予定。		
2 経営基盤の強化	(2)収益の確保	①入院収益の増に向けた取り組み 病床利用率の目標設定	(一般)一日平均入院患者数	117.2	143.1	149.7	152.0	23	入院患者数増を図るために病床利用率に目標を設定 (一般)【H26年度】80.0%(一日平均患者数140人) 【H27年度】84.0%(一日平均患者数147人) 【H28年度】85.1%(一日平均患者数149人) (精神)【H26～28年度】86.7%(一日平均患者数78人)	(一般)【H28年度】4月～12月 84.7%(1日平均患者数149.1人) (精神)【H28年度】4月～12月 85.4%(1日平均患者数76.8人)							
			(一般)病床利用率	79.9%	81.3%	85.4%	86.9%										
			(一般)入院診療単価(円)	36,135	37,564	40,316	41,600										
			(一般)新入院患者数	2,501	2,870	3,248	3,240										
			(精神)一日平均入院患者数	79.2	79.7	79.4	80.0										
			(精神)病床利用率	87.9%	88.5%	88.2%	88.9%										
			(精神)入院診療単価(円)	14,608	14,826	15,140	14,800										
経常収支比率		98.9%	101.2%	99.0%													
	②診療報酬改定への適切な適応						24	診療報酬制度(施設基準)への適切な対応(H26.4月、H28.4月)	H26.4 施設基準への対応を行った。 H28.4 改定に伴う施設基準の届出を実施 H28.8 7対1入院基本料に係る経過措置対応 H28.12 認知症ケア加算2施設基準取得(新項目)			○					
							25	医療事務委託会社との連携による職員の診療報酬知識の向上【H26年度～】	H27.5 施設基準等に係る報告 H27.8 精度調査 H28.2、3 4月の診療報酬改定対応打合せ H28.6 看護必要度に係る精度検証業務を委託			○					
							26	DPCデータの分析と活用の促進(DPC分析ソフトの導入)	H26.7 DPC分析ソフト導入 H26.7導入以降、後発品切替への指数、日別収益、疾患別順位等資料作成を行ってきた。収益面では、前月分までDPC請求点数と出来高点数との差額が大幅にマイナスがあった患者については、個別に医師に確認し、病名変更できる場合は変更をおこなっている。また、地域包括ケア病棟が新設される時には、一般病棟から地域包括ケア病棟への転棟のタイミング時期などをEVE(DPC分析システム)で分析し、院長、副院長、上級管理職に説明をおこなった。平成28年度からの当院の医療機関別係数の値を、平成27年度のデータ実績で仮算出し、出来高合計とDPCでの請求額での比較を行った。 H28年度から、2、3ヶ月に一度委員会を開催(H28.8.31、H28.11.30、H29.2月予定)している。また、クリニカルパスの使用率向上へむけて、DPC分析システムからデータを用いて当院疾患別の多いものからバ			○					
(3)費用の適正化	①材料費の適正化	薬品回転期間(回)	28.3	31.7	26.2	—	9	DPC病院への移行に伴い、ジェネリックへの切替を促進。 ⇒医療安全面も考慮し、高知大学のジェネリック採用品目も参考に採用品目の検討									
		診療材料回転期間(回)	35.0	34.0	34.4	—	28	同規模病院との比較も参考に、災害時の必要量も考慮しながら、在庫数量の適正化を図る	回転期間 H28.10～H28.12 薬品:33.1日、診療材料:34.0日			○					
		薬品値引率	9.55%	12.11%	12.38	—	29	同種同効品・類似品の集約や契約の見直しなどにより、材料費の低減を目指す。引き続き2病院共同で契約交渉を実施。幡多けんみん病院に導入したコンサルタントによる分析結果を踏まえ、調達のあり方を見直す。【継続】	平成28年度の薬価改定において、薬価の大幅な引き下げに伴う薬価差益の減少が値引率に歯止めをかけている状況で、前年度並みの値引率は難しいと感じる。 ただ、後発医薬品への切り替えは進んでおり、引き続き全体の値引率もさらに引き出したい。			○					
		診療材料(インプラント)値引率	11.19%	12.11%	13.24%	—											
(4)未収金の縮減	①不良債権化の防止						30	未収金対応マニュアルに沿った対応を徹底。誓約書の求めやクレジットカード決済の活用【継続】 H26 督促1回、訪問2回 H27 督促2回、訪問2回	H28.6 未収金回収委託を実施(49名3,036,872円) H28.7 督促発送、患者宅訪問実施 H28.10 患者宅訪問実施(18名753,499円) H28.11 未収金回収委託を実施 H28.11 督促発送、患者宅訪問実施			○					
							31	両病院の経営事業部に「医師支援チーム」を新設し、担当職員を配置することで、院内外に向けて医師の招へいに向けた積極的な姿勢を打ち出す	H26医師支援チーム新設済み			○					
(1)医師の確保	④医師受け入れ体制の強化						32	応募者増への取り組み(積極的なリクルート活動を実施)	H28.3 完成。就職説明会で活用。			○					
									HPでの広報の充実	HPを随時更新している。			○				

「第5期経営健全化計画の取組状況」【あき総合病院】

資料1-2

H27年度 第5期経営健全化計 画重点取組項目	目標値						No.	具体的な取組内容	達成状況	H28年度 第3四半期評価				コメント	達成状況		
	課題	業績評価指標	H25年度 (実績)	H26年度 (実績)	H27年度 (実績)	H28年度 (計画)				評価	計画 達成	進捗状況				評価 保留	
												計画以上	計画通り				遅延
医師をはじめとする医療スタッフの確保								学生実習の積極的な受け入れ	H28.4～6 看護実習生を外来8組14人、病棟5組25人、病棟・外来4組13人受入 7～9月 外来3組6人、病棟11組40人、病棟・外来1組5人受入。 10～12月 病棟5組15人、病棟・外来2組8人名受入			○					
								病院見学の積極的な受け入れ	H28.4.19 インターンシップ1名受入(四万十病院) 5.10 インターンシップ1名受入(山陽大学)			○					
							33	各種養成学校の定期訪問の実施	H28.4.12 高知大学医学部 看護学科 地域生活支援実習のオリエンテーション参加 H28.5.13 高知県医師会看護専門学校実習オリエンテーション参加			○					
	(3)職員の処遇改善	①医師の受け入れ体制の充実・勤務環境の改善	医師事務補助者数(診療報酬加算)	5+精1(30対1)	6+精1(30対1)	6+精1(20対1)	—		34 医師事務補助者の増員【H26年度】⇒2名増員の計画	H26.4.1 施設基準 30対1(6名) H27.6.1 施設基準 25対1 2名増(非常勤1名) H28.2.1 施設基準 20対1 2名増(非常勤1名) H28.5.1 施設基準 25対1 2名減(非常勤2名) H28.8.1 施設基準 20対1 2名増(非常勤2名)			○				
	②看護師の業務の負担軽減							35 看護補助者の増員を検討【継続】	H28 6月1名雇用。非常勤勤務の雇用形態の具体案を検討中。			○					
	③看護師の労働環境の改善							36 新しい看護方式(PNS)導入について検討を始める【H26年度】	H27.4～ PNSパートナー決定。デイパートナーを実施中。 H28.3～ PNS変則2交代勤務を6病棟で導入中。今後、順次導入予定。 H28.6.19～ 1病棟にて導入。			○					
4 人材の育成	(1)若手医師の養成	①院内体制の整備：ワンストップ窓口の設置						31 両病院の経営事業部(旧事務部)に「医師支援チーム」を新設。専任担当職員を配置し、大字や研修医の一元的な窓口とする<再掲>									
		②卒前教育への協力	医学部学外実習生受け入れ件数(人)	41	70	60	58		37 学外実習生の積極的な受け入れ【継続】	H28.4～6 臨床実習Ⅱ(6年生) 12名 臨床実習Ⅰ(5年生) 2名 総合内科実習(5年生) 4名 H28.7～9 臨床実習Ⅰ(5年生) 10名 総合内科実習(5年生) 6名 H28.10～12 臨床実習Ⅰ(5年生) 9名 総合内科実習(5年生) 4名			○				
			地域枠学生受け入れ件数(人)		14	4	3		38 地域枠学生の受け入れ ⇒安芸地域医療道場(仮称)の開始に向けて関係機関(高知大、健康政策部等)との協議を実施【H26年度】	H28.8 へき地医療夏期実習生の受け入れ 3名			○				
		③初期臨床研修の実施	協力型研修医受入実績(人)	6	14	15	4		39 基幹型臨床研修病院の指定に向けた取り組み【H26・27年度】 全ての指定要件を充足する取り組み、研修プログラムの策定【H26年度】 指定申請(6月)、研修医募集(マッチング参加)【H27年度】 研修開始【H28年度】	H27.6 研修プログラムの策定及び指定申請、マッチング参加申込、募集案内のHP掲載 H27.8 H28年度研修医採用面接実施 3名 H27.9 基幹型臨床研修病院指定 H27.10 定員2名に対し2名とマッチング H28.3 2名とも国家試験合格		○					
		④後期研修の実施(病院GP養成)【継続】							40 高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラム開始 4月 キックオフセレモニー開催 9月～ ポートフォリオ発表会等随時開催	H27.4 専攻医2名が研修開始、研修開始式及びキックオフセレモニー開催 H27.9 研修管理委員会、第1回ポートフォリオ発表会開催 H27.10 プログラム説明会開催 H27.12 第2回ポートフォリオ発表会開催 H28.3 研修管理委員会、第3回ポートフォリオ発表会開催 H28.4 専攻医1名が研修開始、研修開始式及びキックオフセレモニー開催		○					
		⑤専門医等取得体制の整備【継続】							41 専門医取得体制の整備【継続】 H25年度に締結した「協定」に基づき、地域医療支援センターが中心となって実施する、医師のキャリア形成支援の取り組みに主体的に協力する	高知大学医学部附属病院策定の専門医養成プログラムへ連携研修施設として参加受諾(内科、外科、救急科、病理、眼科、精神科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、総合診療科) 高知赤十字病院策定の救急専門医養成プログラムへ連携研修施設として参加受諾 H27.7 第1回総合診療医養成に関する協議会へ参加 H27.9 第2回総合診療医養成に関する協議会へ参加 H27.11 第3回総合診療医養成に関する協議会へ参加 H28.2 第4回総合診療医養成に関する協議会へ参加 H28.9 高知家総合診療専門研修プログラム準備委員会へ参加			○				
	(2)看護師の専門性の向上	①認定看護師の更なる養成							42 救急、皮膚排泄ケア、緩和ケア、感染管理、透析、摂食嚥下障害について養成を検討 H25年度時点 ・認定看護管理者:1名 ・専門看護師:がん1名 ・認定看護師:皮膚・排泄ケア1名、感染管理1名 計2名(養成中)認知症1名 ・精神科認定看護師:行動制限最小化1名、精神科身体合併症1名 計2名 H26年度時点 ・認定看護師:認知症 1名	H27.7 透析療法従事者職員研修に1名参加 H28.3 国家試験合格(精神保健福祉士) H28.12 救急看護認定看護師教育課程 1名合格			○				
	②助産師の養成・確保							43 高知大への派遣(候補がいる場合)	今年は該当者なし。				○				
	③特定看護師制度への対応							44 特定看護師制度実施後の他院の状況を踏まえ、適切に対応する	平成29年度 特定看護師(皮膚・排泄ケア)1名受験予定				○				
	④若手看護師の育成							36 新しい看護方式(PNS)導入について検討を始める <再掲>									

「第5期経営健全化計画の取組状況」【あき総合病院】

資料1-2

H27年度 第5期経営健全化計 画重点取組項目	目標値						No.	具体的な取組内容	達成状況	H28年度 第3四半期評価				コメント	達成状況		
	課題	業績評価指標	H25年度 (実績)	H26年度 (実績)	H27年度 (実績)	H28年度 (計画)				評価	計画 達成	進捗状況				評価 保留	
												計画以上	計画通り				遅延
(3) コメディカルの専門性向上							45	医療提供に必要な資格(サブスペシャリティ)については、公費負担による資格取得を促進する ⇒必要な資格の洗い出しと予算化【H26年度】 研修等への派遣【H27年度】	H27年度 外来がん治療認定薬剤師の資格をH27年度に1名取得(認定期間H28.4.1～3年間)			○					
5 南海トラフ地震対策の充実・強化	(1) 災害時医療提供体制の充実	① BCPの実効性の担保					46	BCPの作成【H26年度】	H27年8月完成	○							
		② 職員安否確認システムの実効性担保					47	職員安否確認システムの運用テストと運用開始【H26年度】	前年度より運営会議で職員に周知し部署で登録促進。 メール登録率正職員67.0%(327人中219人登録)			○					
		③ 災害時備蓄の拡充						災害棟の建設	設計委託業務着手(H.27.9.3契約) 設計完成(H28.1.31) 建設設備工事は、H28.3.30～H28.10.31、建築主体工事は、H28.6.4～H28.10.31で契約。10月31日竣工。	○							
		④ DMATの体制充実・訓練					48	研修を受講し2チーム体制に復元【H26年度】 H25年度:1チーム H26年度:2チーム	H26.4 人事異動により2チーム体制に復元した。 H26.9 看護師1名がDMAT隊員資格を取得した。 H28.4 熊本地震へDMAT派遣 H28.12 四国DMAT実動訓練参加(南国市)	○							
(3) 診療情報の保全	① 診療情報の県外保全						50	「県医療情報通信技術(ICT)連絡協議会」に参画 ⇒県内12病院と共同で、県内ネットワークを活用したシステムによる診療情報の県外保全を検討	H26.9 電子カルテ診療データの県外バックアップ環境構築済み。 H27.9.29 第1回高知県医療情報通信技術連絡協議会開催 H27.11.26 高知県医療情報通信技術連絡協議会第1回地域医療連携委員会開催 H28.2.22 高知県医療情報通信技術連絡協議会地域医療連携委員会 第1回機能WG開催 H28.3.22 高知県医療情報通信技術連絡協議会地域医療連携委員会 第2回機能WG開催 H28.3.28 高知県医療情報通信技術連絡協議会開催 H28.4.26 高知県医療情報通信技術連絡協議会地域医療連携委員会 第3回機能WG開催 H28.5.17 高知県医療情報通信技術連絡協議会地域医療連携委員会 第1回運用WG開催 H28.5.31 高知県医療情報通信技術連絡協議会地域医療連携委員会 第4回機能WG開催 H28.6.23 高知県医療情報通信技術連絡協議会地域医療連携委員会 第5回機能WG開催 H28.6.30 高知県医療情報通信技術連絡協議会地域医療連携委員会 第2回運用WG開催 H28.8.26 第1回高知県医療情報通信技術連絡協議会第2回地域医療連携委員会開催			○					

「第5期経営健全化計画の取組状況」【幡多けんみん病院】

	病院全体の目標値	アクションNO	H28年度 具体的な取組内容(アクションプラン)	H28年度 担当の目標値等	達成状況	H28年度 第3-四半期評価				コメント	実行 担当者	実行 責任者	
						計画達成	進捗状況						評価保留
							計画以上	計画通り	遅延				
戦略的目標													
1 医療機能の充実	(1)医療の質的向上	①がん診療機能の充実	1	がんに関する勉強会の開催【継続】	・10回/年開催	・4/8参加42名 5/13参加40名 6/10参加90名 7/8参加32名 9/9参加88名 10/14参加31名 12/9参加48名			○			がん診療委員会	院長
				大学と調整し、公募による病理医の確保(常勤1名)〈再掲〉									
	②地域医療支援病院指定への取り組み	2	承認要件の充足(紹介率・逆紹介率以外の項目)	・紹介率・逆紹介率以外の要件確認(H28年度まで)	・運営委員会(外部委員含む)の設置 ・共同利用の病床確保 ・共同利用機器利用体制 ・研修の実施 →いずれも少し準備は必要だがクリア可能。				○			企画担当	院長
		3	地域連携をさらに推進し、「紹介率=50%以上」、「逆紹介率=70%以上」の達成に向けた取組を推進 ⇒①診療科別の医療機関リスト(案)の作成、必要な患者への配布、②かかりつけ医紹介コーナーの設置、③原則「紹介制」のPR、④初診算定基準の変更、⑤診療科別の目標値の設定・毎月の評価、⑥県の小児科クリニックの創設(小児科外来の集約)の検討、etc.	・広報誌によるかかりつけ医の受診促進(年1回)	・H27年度4~12月実績 紹介率:30.6%、逆紹介率:61.7% ・H28年度4~12月実績 紹介率:30.7%、逆紹介率:61.8% ・ニュースレター10月発行分にて「かかりつけ医」促進の記事を掲載済。				○	要件と乖離	企画担当	診療部長	
		4	紹介患者用外来窓口設置後の返書管理と運用の評価	・紹介元への返信(お礼状)率100% ・返書状況を把握し、速やかに返事が出せる体制を作っていく。	・紹介元への返信(お礼状)は地域医療室でとりまとめ、全件FAXにより送っている。 ・未返事の医師には催促をしている。 H28年度返書率(11月末まで)97.1%(=3,880件/3,995件)				○		診療情報管理室	院長	
			③看護配置7対1の維持	※「3. (2)医師以外の医療スタッフの確保」に記載									
(2)第三者機能評価の認定取得	①H28年度内に病院機能評価の認定取得	5	病院機能評価受審・認定	病院機能評価認定	7/12訪問支援(プレ受審)実施、11/17・18本受審実施、1/10中間的な評価報告到着				○	中間的な評価でC項目該当なし	経営事業課	経営事業部長	
		6	院内体制の整備(各項目の事前チェックの実施)	委員会、幹部・部門ミーティングの実施支援	・委員会(10、11、12月)開催 ・幹部ミーティング(10/14、11/9)実施 ・ケアプロセス模擬(10/20、27、11/2)実施 ・部署ラウンド8回+外部招聘にて2回				○		経営事業課	経営事業部長	
(3)地域連携の推進	①医師会・地域の医療機関との関係強化	7	院内外の医療関係者を対象とするがんに関する勉強会の継続	10回/年	・No.1のとおり。				○		がん診療委員会	上岡副院長	
		8	医師会との意見交換会を開催	年1回	・地域医療構想(病床機能分化等)の検討会議に参加。 2月以降、幡多区域調整会議に参加予定。				○		院長	院長	
		9	幡多地域医療連携フォーラム	年1回	・1/21開催。(全9演題)参加81名。				○		院長	上岡副院長	

「第5期経営健全化計画の取組状況」【幡多けんみん病院】

	病院全体の目標値	アクションNO	H28年度 具体的な取組内容(アクションプラン)	H28年度 担当の目標値等	達成状況	H28年度 第3-四半期評価				コメント	実行 担当者	実行 責任者		
						計画達成	進捗状況						評価保留	
							計画以上	計画通り	遅延					
戦略的目標														
(4) 患者サービスの向上	②地域連携バスの導入	10	地域連携バスWGの開催【継続】 地域連携バス検討委員会の開催【継続】	各3回/年開催	地域連携バス検討委員会 5/23,10/20 地域連携WG 6/6,8/8,11/14			○			バス委員会	西村医師		
			がんに関する勉強会の開催【継続】 <再掲>											
		11	胃がんバスの運用											
		12	大腸がんバスの運用											
	①接遇の向上 ②アメニティの改善	13	外部講師による接遇研修の実施									教育研修委員会	看護部	
		14	医事業務受託者の接遇チェックを実施【継続】	年1回以上	6/20、10/7、12/16 実施			○				企画担当	経営事業部次長	
		15	必要に応じた備品、調度品の修繕、更新を実施	継続実施	病棟・救急待合イス張替え、 院内内装クロス張替え				○			総務担当	総務担当 チーフ	
		③給食メニューの改善	16	患者満足度(嗜好調査)の実施【継続】	年2回以上	H28. 6 1回目実施 H28. 12 2回目実施予定			○				栄養科	栄養科長
			17	前回の結果を踏まえた給食の改善	学童食の提供開始	H28. 5 第2週から提供開始			○				栄養科	栄養科長
		④住民向け広報活動の充実	18	「幡多ふれあい医療公開講座」の開催【継続】	参加者80名以上/回	・4/17参加101名(四万十市) ・6/12参加65名(宿毛市) ・9/11参加54名(黒潮町) ・10/30参加73名(宿毛市) ・12/4参加102名(四万十市)			○				経営企画	診療部長
			19	ホームページ・広報誌の充実	更新回数月1回	4月～12月 40件			○				企画担当	経営事業部次長
	2 経営基盤の強化	(1) マネジメントの充実	①経営幹部会議のあり方の検討	20	経営幹部会議の資料に指導・件数などの報告を追加し、毎月のチェックを行う。	・毎月のチェックを行い、同会議にて指導・件数等の報告を行う。			○			企画担当	経営事業部長	
			②病院及び本庁の経営管理能力の向上		事務職員に対する研修体制を充実 <再掲>									
		(2) 収益の確保			医療事務委託会社との連携による職員の診療報酬知識の向上 <再掲>									
			①病床利用率の目標設定	21	DPCデータの分析と活用の促進(DPC分析ソフトの導入)	DPC分析ソフトによる分析 1回/月	・10月から看護必要度(Hファイル)の提出が必要になり、ヒラソルにて看護必要度のチェックを開始			○			DPC委員会	院長

「第5期経営健全化計画の取組状況」【幡多けんみん病院】

	病院全体の目標値 戦略的目標	アクションNO	H28年度 具体的な取組内容(アクションプラン)	H28年度 担当の目標値等	達成状況	H28年度 第3-四半期評価				コメント	実行 担当者	実行 責任者	
						計画達成	進捗状況						評価保 留
							計画以上	計画通り	遅延				
	②診療報酬改定への適切な適応 ③コンサルタントの導入	22	マネジメントシートの作成と進捗管理	・同シート作成及びH28年度進捗状況報告。	・H28年度シートは作成済。 ・四半期ごとの進捗状況報告 7/26 1回目報告。 10/25 2回目報告。 1/24 3回目報告。			○			企画担当	経営事業部次長	
		23	H28年度診療報酬改定に向けた増収対策	・退院支援加算1取得 ・認知症ケア加算2取得	・介護支援連携指導料32件 (H28.12月累計年間要件50件) ・10/1認知症ケア加算2取得。 11月より算定開始。 (H28.12月累計920件・170千円)			○			企画担当	経営事業部次長	
(3)費用の適正化	①材料費率の適減	24	高額医薬品については、ジェネリックへの切替使用数量が多い医薬品についても順次切替を検討するなど、後発医薬品の使用率を高める	70%	4~12月 後発医薬品係数 82.9%			○			薬事委員会	薬剤長	
		25	同規模病院との比較も参考に、災害時の必要量も考慮しながら、在庫数量の適正化を図る	新システムを活用し、適正化を目指す。	システム修正後、実地棚卸を行った			○			薬事委員会	薬剤長	
		26	同種同効品類似品の集約や契約の見直しなどにより、材料費の低減を目指す。引き続き2病院共同で契約交渉を実施。【継続】	薬品については、2病院で情報共有し、8月中の妥結を目指す。	8月妥結			○			薬事委員会・診療材料委員会	経営事業部長	
	②委託費の見直し	27	購入価格(イニシャル)だけでなく、将来の保守料(ランニング)を含めた調達方法の導入と継続的实施	—	—							総務担当	総務担当 チーフ
		28	警備、防災センター業務について、仕様書を見直し、適正化を図る。		27年度見直し済み(平成28年度契約の仕様書に災害時対応業務フローを追加)	○						総務担当	総務担当 チーフ
	③減価償却費の適減	29	各年度の投資枠の見直し、院内の器材委員会でのチェック強化	H27年度開催の予算委員会で検討された予算に基づき執行	H28年度の資本予算については、予算委員会で予算を計上。その後緊急対応でパイプラインの予算を追加計上。			○				総務担当	総務担当 チーフ

「第5期経営健全化計画の取組状況」【幡多けんみん病院】

	病院全体の目標値	アクションNO	H28年度 具体的な取組内容(アクションプラン)	H28年度 担当の目標値等	達成状況	H28年度 第3-四半期評価				コメント	実行 担当者	実行 責任者	
						計画達成	進捗状況						評価保 留
							計画以上	計画通り	遅延				
(4)未収金の 縮減	①不良債権化の防止 ②悪質滞納者への 対応強化	30	未収金対応マニュアルに沿った対応を徹底。誓約書の求めやクレジットカード決済の活用【継続】	・クレジット利用実績報告 ・督促・催告状送付 ・訪問徴収の実施	・H27年度4～12月クレジット実績 外来:9,559千円(1,157件) 入院:17,100千円(220件) ・H28年度4～12月クレジット実績 外来:9,307千円(1,249件) 入院:17,413千円(223件) ・督促・催告状送付 5/2 3,880千円(32件) 7/27 5,113千円(31件) 9/14 5,972千円(38件) 11/9 1,465千円(19件) (予定)1/18 1,065千円(7件) ・訪問徴収 7/5、7/6 訪問件数8件			○			企画担当	経営事業部 次長	
		31	回収委託の拡充【継続】 委託時期(現状:発生から最短9月後)を前倒しするなど、回収委託を積極的に活用	・回収委託の実施	H28年度から一番町へ業者変更 ・5/30 5,021千円(154件)委託。 ・8/25 257千円(10件)委託。 ・10/26 4,266千円(256件)委託。 ・12/15 887千円(25件)委託。			○			企画担当	経営事業部 次長	
		32	法的措置(支払督促)の実施【継続】 年1回、判定会を開催し、該当者に対して法的措置(支払督促)を実施	・法的措置の実施	・判定会開催実績なし。					○	開催実績なし	企画担当	経営事業部 次長
(5)資産管理の 適正化	②施設の維持管理 の適正化		設備耐震診断を実施⇒診断結果を踏まえ、大規模修繕などの必要な措置を講じ、耐震性を確保する<再掲>										
3 医師をはじめとする 医療スタッフの確保	(1)医師の確保	①高知大学医学部 への訪問	35	公営企業局長と病院長が継続的に高知大学医学部を訪問し、常勤医の派遣や診療応援の回数増などを要請	同大学が開催する会議等は必要に応じて医師支援担当も参加。	・4/11高知地域医療支援センター 運営委員会参加 ・6/2同大学医学部関連教育病院 運営協議会参加			○			医師支援 チーム	院長
			36	県奨学金受給医師の受入	幡多地域医療道場・学外実習・病院見学等の受入による奨学金受給者に対する広報活	・奨学金受給医師7名(うち研修医3名) ・へき地医療夏期実習2名受入(8/18・19)			○			医師支援 チーム	院長
		②健康政策部・高知 医療再生機構との 連携の強化	37	高知大学から派遣が困難な診療科の医師の確保	—	—				○			医師支援 チーム
		38	再生機構補助事業の活用、実施支援	・同補助交付額に対する執行率70% (H27年度:61%)	4月～12月の執行率 24%				○			医師支援 チーム	院長
	③医師受け入れ体制 の強化	39	両病院の経営事業部(旧事務部)に「医師支援チーム」を新設し、担当職員を配置することで、院内外に向けて医師の招へいに向けた積極的な姿勢を打ち出す ・医師派遣(常勤、診療応援)に関する大学(医局)との連絡調整 ・院長等の大字訪問の日程調整 ・医師初期臨床研修、学外実習生(医学生)の受入調整等 ・医師個人の赴任、離任、各種届出に関する事務手続きの支援 ・出張、研修に関する事務手続き	医師支援チーム内での情報共有、手続等の標準化	診療科を担当2名で分担し各種手続を迅速に行えるように努めている				○	各手続が遅延なく行われている	医師支援 チーム	医師支援担当 チーフ(経営 事業部次長)	
	④公募による病理医 の確保	40	大学と調整したうえで、公募による病理医の確保を試みる	—	—							経営事業 部長	院長
	(2)医師以外の 医療スタッフの 確保	①採用試験の改善	41	可能な限り、年度の早い時期に採用試験を実施		6/18～6/19 10/29 採用試験実施 1/21 追加試験実施			○				看護部
42			看護師応募者向けのPR冊子の作成	H29年度版パンフ作成	H27年度に見直し済 H29年度版パンフ作成予定 (1/17CC委員会で検討)			○				看護部	看護部長
②応募者増への取り組み(積極的なリクルート活動を実施)		43	HPでの広報の充実		ホームページ更新継続中			○				看護部	看護部長

「第5期経営健全化計画の取組状況」【幡多けんみん病院】

	病院全体の目標値	アクションNO	H28年度 具体的な取組内容(アクションプラン)	H28年度 担当の目標値等	達成状況	H28年度 第3-四半期評価				コメント	実行 担当者	実行 責任者			
						計画達成	進捗状況						評価保 留		
							計画以上	計画通り	遅延						
戦略的目標															
		44	学生実習の積極的な受け入れ		受け入れ継続実施中			○				看護部	看護部長		
		45	病院見学の積極的な受け入れ		受け入れ継続実施中			○				看護部	看護部長		
		46	各種養成学校の定期訪問の実施		各種養成学校訪問継続実施中			○				看護部	看護部長		
		③コメディカル職種 の採用	47	少人数のコメディカル職種の計画的採用を検討		H28年度当初配置で計画達成	○						各技師長	経営事業 部長	
		(3)職員の処遇 改善	②看護師の業務 の負担軽減 ③看護師の労働環境 の改善	48	看護補助者の増員を検討		ハローワーク募集中			○				看護運営会	看護部長
49	看護方式(PNS)の試行			H28年度 3部署試行予定	12/1から 東5、西6 試行 2/1から 東6 試行予定			○				看護運営会	看護部長		
4 人材の 育成	(1)若手医師の 養成	①院内体制の整備： ワンストップ窓口 の設置		両病院の経営事業部(旧事務部)に「医師支援チーム」を新設。専任担当職員を配置し、大字や研修医の一元的な窓口とする<再掲>											
		②卒前教育への協力	50	学外実習生の積極的な受け入れ【継続】	高知大学外実習受入56名(6年:17名、5年39名)	1/1現在受入状況 6年生17名、5年生35名受入済み			○				医師支援 チーム	院長・ 川村医師	
			51	地域枠学生の受け入れ⇒幡多地域医療道場の開催協力【継続】	幡多地域医療道場受入	・幡多地域医療道場28名受入済み(8/24・25)			○				医師支援 チーム	院長・ 川村医師	
		③初期臨床研修 の実施	52	基幹型臨床研修病院として研修医を受け入れ、高知大学に帰して再度派遣してもらうシステムを確立する。	H29年度募集5名を確保	・H28年度研修医在籍数7名(1年目3名、2年目4名) ・H29年度マッチング5名(フルマッチ)			○				医師支援 チーム	院長・ 川村医師	
			53	研修医の積極的な受入体制の整備、学生へのPR	県内外への各種イベントの参加	5/29eレジ東京、6/2高知県内臨床研修説明会、6/19eレジ大阪、7/3レジナビ大阪、7/17レジナビ東京参加済み			○				医師支援 チーム	院長・ 川村医師	
		④後期研修の実施 【継続】	54	高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラムの実施	—	—			○					医師支援 チーム	院長・ 川村医師
			55	ホームページ、パンフレット等による広報活動	—	—			○					医師支援 チーム	院長・ 川村医師
			56	H25年度に締結した「協定」に基づき、地域医療支援センターが中心となって実施する、医師のキャリア形成支援の取り組みに主体的に協力する	—	—			○					医師支援 チーム	院長
		(2)看護師の専門性の向上	①認定看護師の 更なる養成	57	認定看護管理者1名を養成する。		H27年度養成終了	○						看護運営会	看護部長
				②助産師の確保	58	高知大への派遣(候補がいる場合)	高知大学へは1名派遣	高知大学を含め4名派遣中			○				看護運営会
③特定看護師制度への対応	59			特定看護師制度実施後の他院の状況を踏まえ、適切に対応する	H28年度特定看護師制度について検討開始する					○			看護運営会	看護部長	
④若手看護師の育成				看護方式(PNS)の試行<再掲>											

「第5期経営健全化計画の取組状況」【幡多けんみん病院】

	病院全体の目標値	アクションNO	H28年度 具体的な取組内容(アクションプラン)	H28年度 担当の目標値等	達成状況	H28年度 第3-四半期評価				コメント	実行 担当者	実行 責任者		
						計画達成	進捗状況						評価保 留	
							計画以上	計画通り	遅延					
戦略的目標														
(3)コメディカルの専門性向上		60	医療提供に必要な資格(サブスペシャリティ)については、公費負担による資格取得を促進する ⇒必要な資格の洗い出しと予算化		内規を作成し、公費負担している。	○						経営事業部次長	経営事業部長	
	(4)事務職員の専門性の向上	①交流事務職員の能力向上	61	<交流職員> 初任者研修の実施(研修内容:県立病院の現状、経営状況、地方公営企業会計制度、知事部局との違い等)		未実施				○	新採者オリエンテーションで一部実施	経営事業部次長	経営事業部長	
			62	職位や職務内容に応じた研修の実施 ⇒自治体病院協議会等が開催する研修に、職位や職務内容に応じて職員を指名し、受講させる仕組みを構築する(「手上げ方式」から「指名方式」へ移行)	研修内容と職務を勘案し、受講を検討する。	10/24-10/26 地方公営企業財務会計講習会 受講			○			経営事業部次長	経営事業部長	
		③プロパー事務職員としての専門性の向上	63	医療事務委託会社との連携による職員の診療報酬知識の向上	日々の業務を通して連携し、そのうえで知識の向上を図る。	継続実施				○			経営事業部次長	経営事業部長
			64	<プロパー職員> 新採研修の実施【継続】		継続実施				○			経営事業部次長	経営事業部長
			65	<プロパー職員> 外部専門機関との連携による研修プログラムの作成の検討	病院事務職員情報交換会実施	H28.7.22 あき総合病院、医療センター、県立病院課の出席により開催 H29.1.21 自治体病院協議会主催の講演会 出席				○			経営事業部次長	経営事業部長
5 南海トラフ地震対策の充実・強化	(1)災害時医療提供体制の充実	①BCPの策定及び実効性の担保	66	BCPの実効性担保へ向けた訓練の実施	災害訓練の実施 小規模本部訓練の実施	8/13幡多地域災害医療救護訓練実施(参加者293名。うち当院職員110名)。8/9本部訓練実施				○		災害委員会	院長・片岡医師	
			67	災害時の職員の役割を明確化	災害対策本部に特化した小規模訓練を繰り返し行い、本部運営の見直しを行う。	本部組織を見直し、8/9の本部訓練、8/13の災害医療救護訓練で検証した。				○		災害委員会	院長・片岡医師	
		②職員安否確認システムの運用開始	68	職員安否確認システムの更なる普及を行う。	登録率70%以上	登録率62.8%				○		災害委員会	経営事業部長	
		③DMATの体制充実	69	DMAT用資器材の拡充	熊本地震派遣時に気付いた細かい不足部分の充足	WiFiルーター2台とタブレット端末2台を購入し、モバイル通信環境を充足。 モバイルプリンター1台追加購入。	○					モバイル端末のほか、携帯トイレ、飲料水等を追加した。	総務担当	経営事業部長
	(2)施設・設備・機器の再点検	①設備の耐震性の確保	70	診断結果を元にした予算を計上し、BCP対策工事を27年度に施行予定	BCP対策工事の完工	工期 H28.3.11~11.30(9.30から延長)	○					H28.11.30完工。災害時に電力及び上水道の7日間単独運用が可能となりました。	総務担当	経営事業部長
			②災害時における燃料水源の確保	71	燃料タンクの増設	BCP対策工事の完工	工期 H28.3.11~11.30(9.30から延長)	○						総務担当
		72		既存の遠方にある井戸にて災害時の対策工事を行う。	BCP対策工事の完工	工期 H28.3.11~11.30(9.30から延長)	○							総務担当

「第5期経営健全化計画の取組状況」 【県立病院課】

H27年度 第5期経営健全化計画重 点取組項目	課題	目標値			No.	具体的な取組内容	達成状況	H28年度 第3四半期評価			コメント			
		業績評価指標	H24年度 (実績)	H25年度 (実績)				H26年度 (目標値)	計画 達成	進捗状況		評価 保留		
										計画以上			計画通り	遅延
2 経営基盤の強化	(1) マネジメントの充実	①経営幹部会議のあり方の検討				1 幡多けんみん病院に導入したコンサルタントの助言を得ながら会議資料や会議の進行について改善を行う【H26年度】	収支見通しの精度向上に向けて「収支状況」（様式1）の見直しを検討中							
		②病院及び本庁の経営管理能力の向上				2 病院事務部の組織再編を実施	26.4.1 組織再編実施 →病院「事務部」を「経営事業部」に、「総務課・経営企画課」の2課体制を「経営事業課」の1課体制に再編	○						
						3 事務職員に対する研修体制を充実【H26年度～】	知事部局が実施する新採研修、職位等に応じた研修への参加			○				
	(4) 未収金の縮減	①不良債権化の防止				4 未収金対応マニュアルに沿った対応を徹底。誓約書の求めやクレジットカード決済の活用【継続】	継続				○			
		②悪質滞納者への対応強化				5 回収委託の拡充【継続】 ⇒委託時期（現状：発生から最短9月後）を前倒しするなど、回収委託を積極的に活用	28.4～ 一番町総合法律事務所に回収委託（～31.3） 所在不明な場合など、病院が回収困難と判断した事例について委託時期を前倒しするなど、積極的に回収委託を実施				○			
						6 法的措置（支払督促）の実施【継続】 ⇒年1回、判定会を開催し、該当者に対して法的措置（支払督促）を実施	債権管理条例の制定にかかる対応と併せて検討中					○	法的措置に係る手続の整理が必要	
	(5) 資産管理の適正化	①棚卸資産管理の改善				7 病院と本庁職員で構成する対策チームを再度組織し、再検討	28.10.31 幡多けんみん病院棚卸見学 28.11.29 幡多けんみん病院薬剤科在庫管理ヒアリング					○		
						8 棚卸資産管理マニュアルの見直し	28.12.15 幡多けんみん病院在庫管理打合せ 28.12.22 あき総合病院在庫管理見学							
						9 受払記録の適正化	29.1.25 あき総合病院在庫管理打合せ（予定）							
	(6) 遊休資産の売却	①売却価格の見直し				10 売却価格を見直し、再度入札を実施したが、参加者がおらず、媒介及び先着順の売払いに移行	【愛宕山南、宝永町、四万十市谷田】 26.10.27～11.10 期間入札 → 参加者なし 26.11.21～27.2.20 媒介 26.12.1～27.4.30 HPにて先着順の売払い 27.7.24～28.3.31 HPにて再度先着順の売払い 28.3.17 宝永町売却契約 28.4.12 愛宕山南売却契約				○		四万十市谷田が残存のため継続して対応	
			②建物の早期解体				11 【吸江看護師宿舎】起債を活用して建物の解体を実施	26.9.12 解体前に建物付で売却				○		
							12 【旧宿毛病院】起債を活用して建物の解体を実施	27.1.9 設計委託業務完了 27.3.31 損失補償事前調査完了 27.3.21 解体工事着手 27.11.9 解体工事完了				○		
3 医師をはじめとする医療スタッフの確保	(1) 医師の確保	①高知大学医学部への訪問				13 公営企業局長と病院長が継続的に高知大学医学部を訪問し、常勤医の派遣や診療応援の回数増などを要請	28.6.21 病院長・学部長ほか訪問（局長、あき総合病院長） 28.6.23 訪問（局長、あき総合病院長） 28.10.25 訪問（局長、あき総合病院長） 28.11.15 学長ほか訪問（局長、あき総合病院長） 29.2.21 学長訪問（局長、あき総合病院長）【予定】				○			
		②健康政策部・高知医療再生機構との連携の強化				14 県奨学金受給医師の受入	随時検討						○	
						15 高知大学から派遣が困難な診療科の医師の確保								
						16 再生機構からの医師の派遣受入								
		④医師受け入れ体制の強化				17 両病院の経営事業部（旧事務部）に「医師支援チーム」を新設し、担当職員を配置することで、院内外に向けて医師の招へいに向けた積極的な姿勢を打ち出す	26.4.1 医師支援担当チームの配置 26.5.23 医師支援担当者会の開催				○			
	(2) 医師以外の医療スタッフの確保	①採用試験の改善				18 可能な限り、年度の早い時期に採用試験を実施	28.4.11 第1回採用選考試験募集開始→28.7.29合格発表 28.7.29 第2回採用選考試験募集開始→28.11.22合格発表 28.12.5 第3回採用選考試験募集開始→29.2.3合格発表				○			
		③コメディカル職種の採用				19 少人数のコメディカル職種の計画的採用を検討	計画的に採用試験を実施 臨床工学技士（あき）、作業療法士（幡多）、言語聴覚士（両病院）	○						
					20 病院GPプログラム検討委員会の開催	高知県立病院群総合医・家庭医療後期研修プログラム プログラム運営・研修管理委員会の開催 28.4.23 H28年度 キックオフセミナー 28.9.10 H28年度 第1回委員会 29.1.21 H28年度 第2回委員会（予定） 29.3.18 H28年度 第3回委員会（予定）				○		プログラム対象後期研修医師 1年目:2名 2年目:2名		
4 人材の育成	(1) 若手医師の養成	④後期研修の実施（病院GP養成）【継続】				20 病院GPプログラム検討委員会の開催	高知県立病院群総合医・家庭医療後期研修プログラム プログラム運営・研修管理委員会の開催 28.4.23 H28年度 キックオフセミナー 28.9.10 H28年度 第1回委員会 29.1.21 H28年度 第2回委員会（予定） 29.3.18 H28年度 第3回委員会（予定）				○		プログラム対象後期研修医師 1年目:2名 2年目:2名	
						21 初任者研修の実施（研修内容：県立病院の現状、経営状況、地方公営企業会計制度、知事部局との違い等）【H26年度～】	検討中					○		
	(4) 事務職員の専門性の向上	①交流事務職員の能力向上				22 職位や職務内容に応じた研修の実施【H26年度～】 ⇒自治体病院協議会等が開催する研修に、職位や職務内容に応じて職員を指名し、受講させる仕組みを構築する（「手上げ方式」から「指名方式」へ移行）	28.6.10 自治体病院管理者研修会（局長） 28.8.25 全国病院事業管理者・事務責任者会議（局長、担当） ～26				○			
						23 「人材育成基本方針」の着実な実行【継続】	継続して実行				○			
		③プロパー事務職員の養成				24 新採研修の実施【継続】	○JTによる研修の継続				○			
					25 外部専門機関との連携による研修プログラムの作成の検討【H26年度】	中止					○			
5 南海トラフ地震対策の充実・強化	(1) 災害時医療提供体制の充実	①BCPの策定及び実効性の担保				26 災害時の本庁職員の役割を明確化【H26年度】	29.1.27 災害訓練（予定）				○		高知県災害時医療救護計画の運用と県立病院課職員の役割の精査が必要	
		②職員安否確認システムの運用開始				27 職員安否確認システムの運用テストと運用開始【H26年度】	システムを職員に周知し、職員安否確認訓練を実施（年1回） 29.1.27 災害訓練（予定）				○			
		③災害時備蓄の拡充				28 水及び食糧の合計7日分の確保【H26年度】 H25年度：食糧3日分を確保	28.12.26 災害用備蓄物資入札（更新分）				○		H26年度までに患者・職員用の7日分を確保済、管理・更新を実施中	
					29 特別食に対応した備蓄食糧の確保【H26年度】	26.7.3 食糧備蓄担当者会 （委託業者の災害時を踏まえた備蓄増により対応可能）	○							

第6期経営健全化計画のポイント

1. 計画の目標（目指す姿）

■地域生活(QOL)を支える中核病院として、地域の医療機関等との連携のもと、質の高い医療の持続的な提供が可能となる健全経営を目指す！

2. 目標達成に向けた重点課題

(1)「第3期日本一の健康長寿県構想」への対応！

○「県民の誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることのできる高知県」の実現。

(2)「地域医療構想」の策定など医療提供体制の段階的な改革への対応！

○平成37年を見据えた医療及び介護の総合的な改革を踏まえた医療提供体制の整備。

(3)「新公立病院改革プラン」への対応！

○医療提供体制の段階的な改革を踏まえ、県立病院の更なる経営効率化、ネットワーク化等を推進。

3. 課題解決に向けた重点取組項目

1 県民が地域地域で安心して住み続けられる医療提供体制の整備！

(1)地域医療構想を踏まえた県立病院の果たすべき役割の発揮

① 急性期病院としての医療機能の充実・強化

ア 地域医療構想で示された必要病床数への対応

- 地域における今後の医療ニーズを踏まえた病床機能の検討(あき総合)
- 医療需要を踏まえた病棟・病床の在り方の検討(幡多けんみん)

イ 救急医療体制の充実(あき総合)

○救急や手術に携わる医師の増員

ウ 地域がん診療病院の指定に向けた機能の充実(あき総合)

- がん診療に携わる医師の増員
- 指定要件の充足に向けた診療機能の充実

エ 地域がん診療連携拠点病院としての診療機能の充実(幡多けんみん)

○がん診療に携わる医師の増員、病理医の充実

② 地域医療を支えるためのネットワークづくり

医師派遣・応援の仕組みづくり

- 健康政策部との連携による医師派遣の仕組みづくり
- 高知大学医学部等と連携した県立病院における医師の養成体制の整備

(2)地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた機能の充実・強化

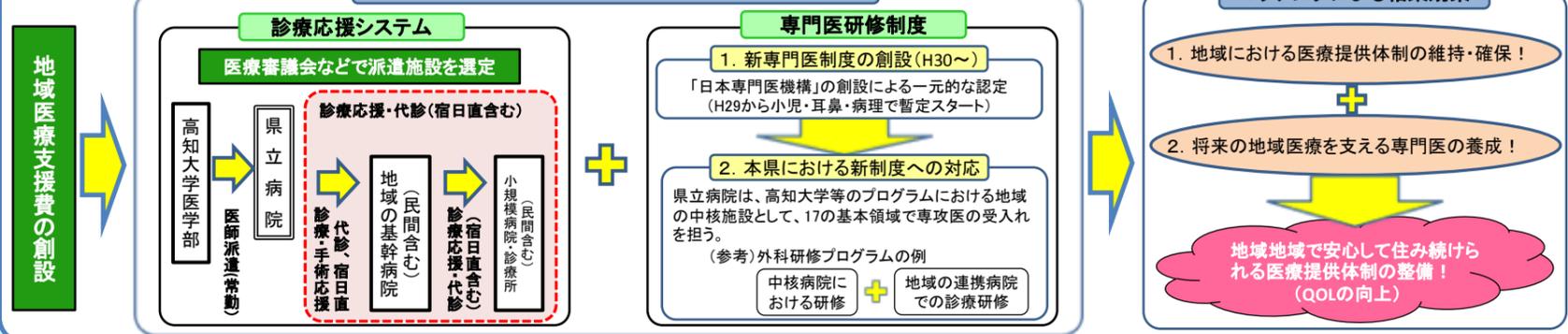
ア 地域包括ケア病棟を活用した在宅医療等との連携の強化(あき)

イ 介護・福祉分野等との連携の推進

○地域包括支援センターや介護事業者等とのネットワークづくり

地域医療を支えるためのネットワークづくり

診療応援システムと専門医研修制度での積極的な活用



2 医療機能の向上による経営の健全化！

質と効率性の高い医療の提供につながる経営改善目標の設定

- ①収益の安定確保
- ②患者満足度の維持・向上
- ③材料費の適正管理
- ④収支計画を踏まえた投資計画の策定
- ⑤未収金の縮減

3 医療人材の安定確保！

医師等の医療スタッフを確保・育成するための取組の強化

- ①医師をはじめとする医療スタッフの安定確保
- ②医師の養成研修への積極的な対応(初期臨床・専門医研修)
- ③医師以外の医療スタッフの専門性の向上
- ④各種の業務補助者の適正配置
- ⑤プロパー事務職員の専門性の向上

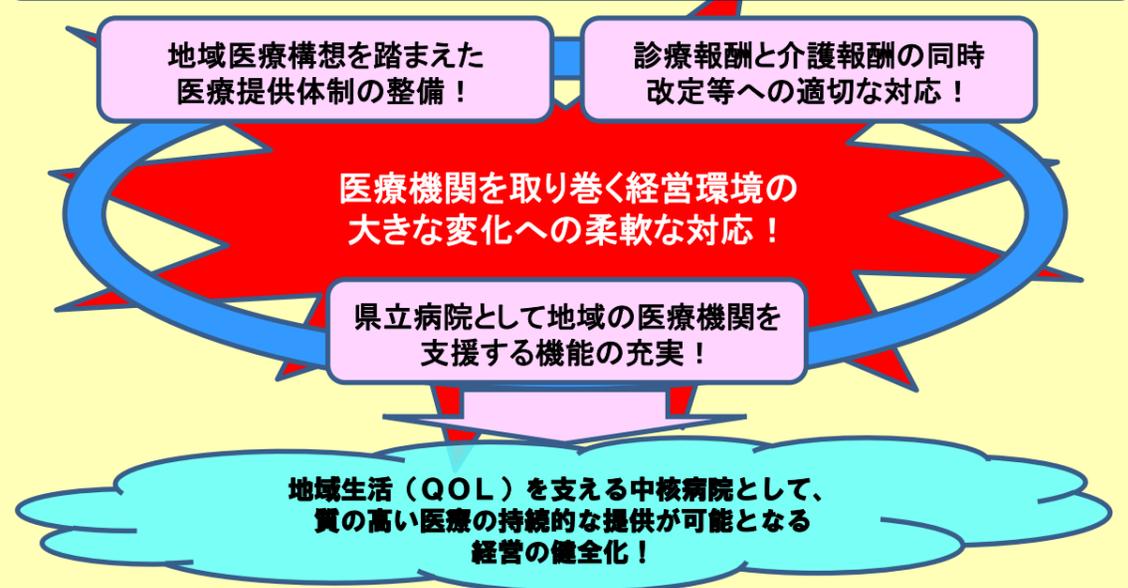
4 南海トラフ地震対策の充実・強化！

熊本地震等を踏まえた第3期南海トラフ地震対策行動計画の見直し等への対応

- ①業務継続計画(BCP)の実効性の担保
 - ・医療機器等の安全性の確保
 - ・重症患者の院内からの搬送体制の整備
 - ・応援医療チームの受入体制の整備
- ②災害訓練等の充実・強化
 - ・患者収容能力の向上など、災害拠点病院としての役割・機能の発揮を想定した訓練の実施

収支計画における経営目標

「平成32年度までに病院事業全体で経常収支の黒字が達成できる経営」を目指す！



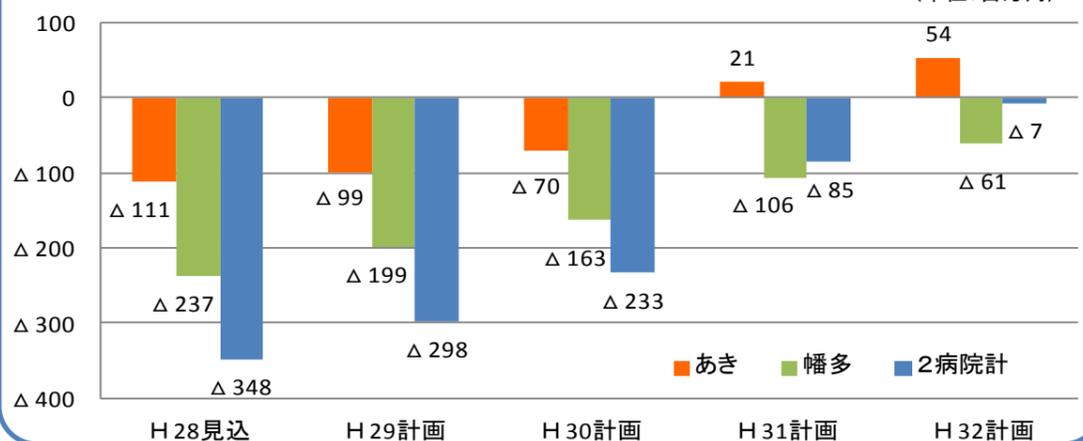
計画期間中の収支計画

(単位:百万円)

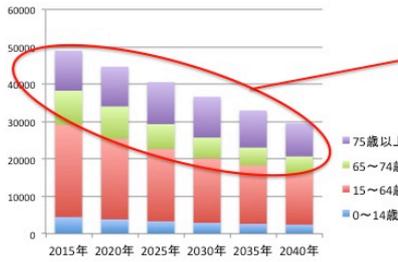
	H28見込	H29計画	H30計画	H31計画	H32計画
収益合計	13,339	13,754	13,772	13,869	13,949
医業収益	10,179	10,372	10,537	10,705	10,876
医業外収益	3,158	3,380	3,233	3,162	3,071
特別利益	2	2	2	2	2
費用合計	13,763	14,127	14,080	14,029	14,031
医業費用	12,939	13,308	13,289	13,239	13,211
医業外費用	746	742	714	713	743
特別損失	△ 79	△ 77	△ 77	△ 77	△ 77
経常収支	△ 348	△ 298	△ 233	△ 85	△ 7
単年度損益	424	373	308	160	82
収益的資金収支	226	313	300	360	310

注)項目ごとに端数処理をしているため、合計が一致しないことがある。

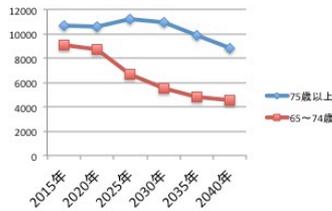
経常収支の見通し



安芸医療圏の将来推計人口

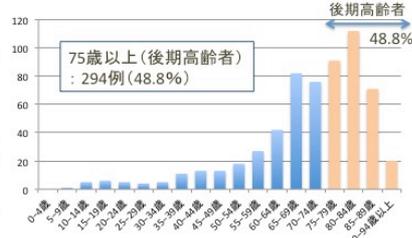


75歳以上の人口推計



安芸医療圏の人口は減少するが、後期高齢者の人口はあと15年は減らない。

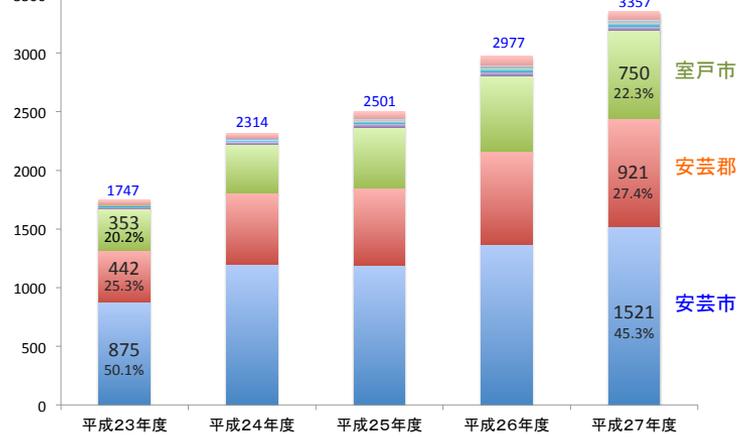
現在でも、手術を受ける患者の半数が後期高齢者 → 医療はまだ必要



一般外科手術症例（あき総合病院 602例）

住所地別患者新入院数の推移（県立あき総合病院）

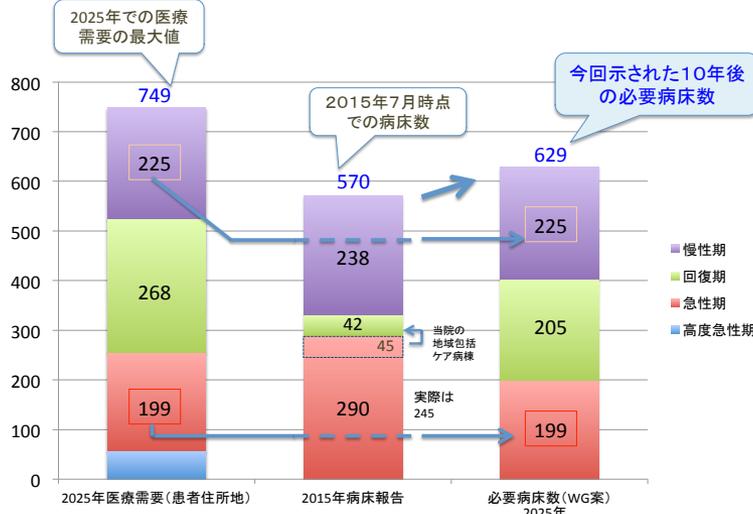
室戸市からの入院患者さんの増加が著しい(約2倍) → 患者移動力の低下が影響している



東部、特に室戸市の患者さんは、中央圏まで行きづらくなっている

安芸郡: 芸西村、安田町、馬路村、田野町、北川村、奈半利町、東洋町

安芸医療圏での必要病床数（高知県地域医療構想）



- 10年後の安芸医療圏の急性期病床数は必要最大数の数字となった。
- 他の医療圏と比べ、安芸医療圏のみ10年後の病床数が現在より多く示された。



地域の医療機関の医師不足は依然として問題 → これからは県立病院も支援の必要あり

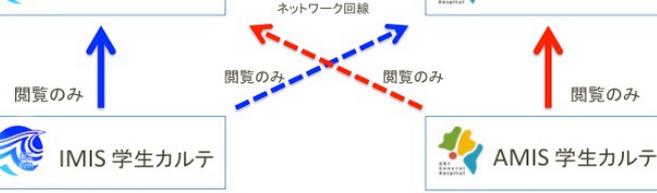
IMIS – AMIS Network (IA-Net)



高知大学医学部附属病院



県立あき総合病院



実際の連携には電子カルテ情報のネットワークが必須

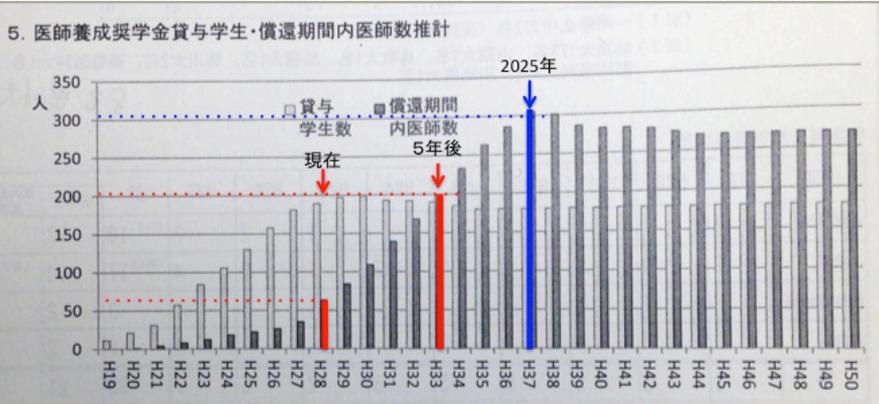
新たながん診療提供体制の概要 (平成25年7月がん診療提供体制に関するWG報告書概要)

- 【課題と対応策】
- ①拠点病院間の格差の存在
→人材配置要件、診療実績要件等の強化、相談支援体制の充実によるさらなる質の向上及び一定の集約化
 - ②拠点病院未設置の空白の2次医療圏の存在
→緩和ケア、相談支援及び地域連携等の基本的がん診療を確保した「地域がん診療病院(仮称)」の新設。
 - ③特定のがん種に特化した診療を行う病院の存在
→特定のがん種に対し高い診療実績を持ち、都道府県内で拠点的役割を果たす「特定領域がん診療病院(仮称)」の新設。



第7期医療計画では、安芸医療圏では地域がん診療病院の整備が必要
がん拠点病院である高知大学附属病院との連携が必要

■ 奨学金貸与医学生(地域枠)・償還期間内医師推移



高知県健康政策部資料より(H28年)

現在(H28年)、あき総合病院に2名の奨学金貸与の医師在籍。
あと5年以内に償還義務の医師は倍増。
→若い医師の養成、専門医取得のためにも、大学病院との連携が必要

今後の方向性

● 地域との連携

- 診療支援などを通じて人的交流
- 二次医療圏内での医療完結
- 介護も含む地域包括ケアシステム構築

● 大学病院との連携

- 専門医養成、若手医師養成(人的交流)
- 特に奨学金償還の医師を支援
- がん診療での病院間連携
- 医療情報ネットワーク

高知県立病院
第 6 期経営健全化計画

(原案)

平成 29 年 月

高知県公営企業局

はじめに

平成 29 年 月

高知県公営企業局長 井奥和男

目次

第1	第6期経営健全化計画について.....	1
第2	第5期経営健全化計画の総括.....	3
第3	目指す目標及び重点取組項目.....	18
第4	各病院の重点取組及び指標.....	19
第5	重点取組項目に基づく個別の取組.....	21
	(1) 県民が地域地域で安心して住み続けられる 医療提供体制の整備！.....	21
	①地域医療構想を踏まえた県立病院の果たすべき役割の発揮.....	21
	②地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた機能の充実・強化.....	28
	(2) 医療機能の向上による経営の健全化！.....	30
	(3) 医療人材の安定確保！.....	32
	(4) 南海トラフ地震対策の充実・強化！.....	35
第6	収支計画.....	36

第1 第6期経営健全化計画について

1 策定の趣旨（背景）

- 高知県公営企業局では、平成26年度から平成28年度までを計画期間とする「第5期経営健全化計画」（以下「前計画」という。）を平成26年2月に策定し、①医療機能の充実、②経営基盤の強化、③医師をはじめとする医療スタッフの確保、④人材の育成、⑤南海トラフ地震対策の充実・強化を柱とする取組を進めてきました。
- また、高知県（知事部局）では、平成28年度から平成31年度までを計画期間とする「第3期日本一の健康長寿県構想」を平成28年2月に策定し、「県民の誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることのできる高知県」の実現を目指した取組を進めているところです。
- こうした中、国においては、すべての団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる平成37（2025）年を見据え、「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律（平成25年法律第112号）」に基づき「地域医療構想」の策定などを通じた医療制度改革を進めており、平成30年度には診療報酬と介護報酬の同時改定も予定されています。
- 併せて、病院事業を設置する地方公共団体に対しては、「新公立病院改革ガイドライン（平成27年3月31日付け総務省自治財政局長通知）」（以下「ガイドライン」という。）に基づき、病院機能の見直しや病院事業経営の改革に総合的に取り組むための新公立病院改革プラン（以下「新改革プラン」という。）の策定を求めています。
- こうしたことから、平成28年度に前計画が最終年度を迎えるに当たり、平成29年度から平成32年度までを新たな計画期間とする「第6期経営健全化計画」（以下「本計画」という。）を策定することといたしました。

2 計画の名称

高知県立病院第6期経営健全化計画

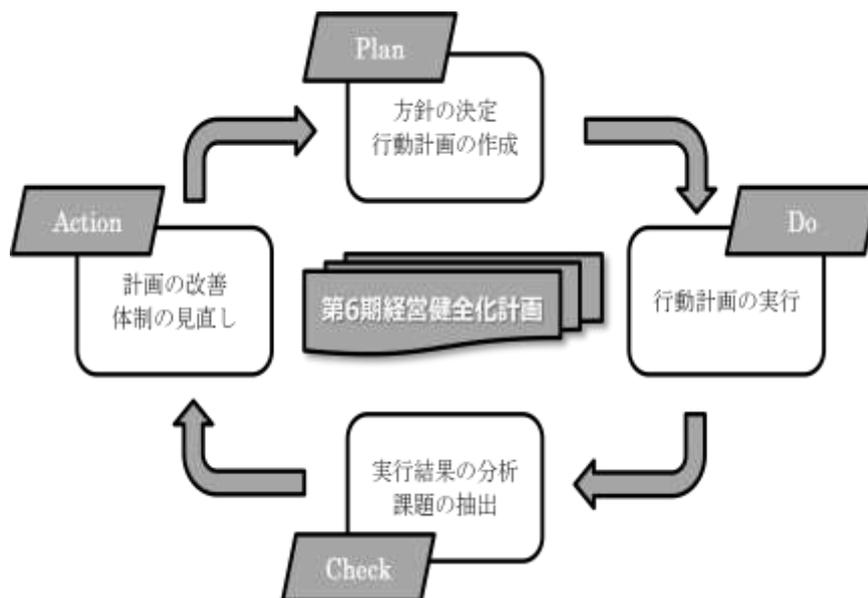
3 計画期間

平成29年度から平成32年度まで（4年間）

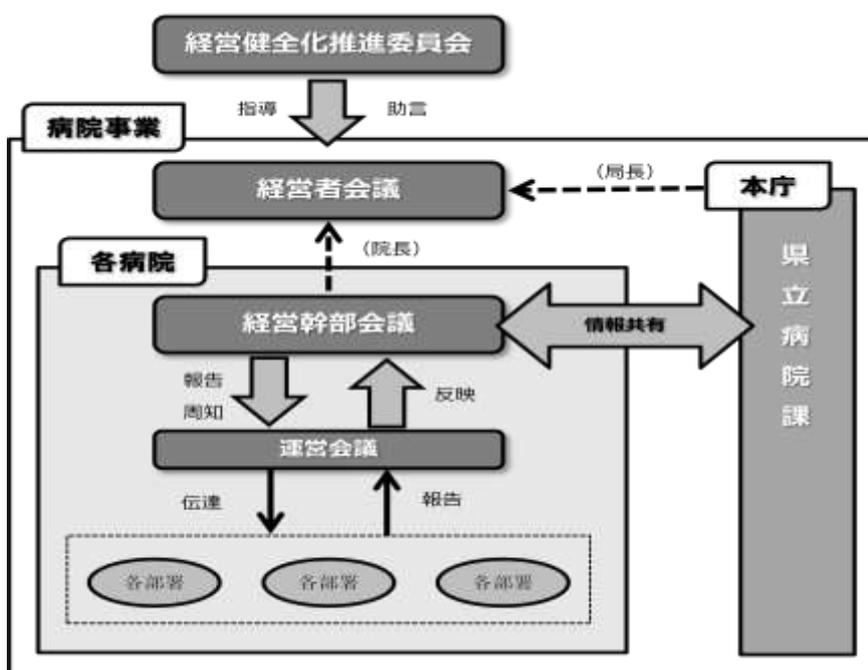
4 計画の進捗管理と経営管理体制

- 本計画については、前計画と同様に、PDCAサイクルを通じた進捗管理を行ってまいりますが、国の医療制度改革の動向などを含め、病院経営を取り巻く環境に大きな変化が生じることも予想されることから、計画期間中であっても必要に応じて計画の見直しを行うこととします。（図1-1）
- 経営管理体制については、前計画における体制を維持するとともに、引き続き、外部有識者の視点からの指導・助言を仰ぐこととします。（図1-2）

[図 1 - 1]PDCA サイクル



[図 1 - 2]経営管理体制



名 称	主たる役割	構成員	開催頻度
経営健全化推進委員会	経営健全化のための指導助言	外部有識者(7名)	年1回程度
経営者会議	病院事業の経営方針の決定	局長、院長	年1~3回程度
経営幹部会議	・病院の経営方針の決定 ・経営課題の共有、解決策の立案	病院：院長等 本庁：局長等	月次
運営会議	・経営幹部会議における決定事項等を各部署に伝達	・経営幹部会議の院内メンバー ・院内各部署の代表者	月次

第2 第5期経営健全化計画の総括

重点取組項目の成果と課題

1 医療機能の充実

(1) 医療の質的向上

あき総合病院

主な取組	成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ●救急患者受入体制の充実 ●手術体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●必要な医師の確保による救急車搬送受入件数の増加 <ul style="list-style-type: none"> 【H25年度】1,350件 【H26年度】1,683件 【H27年度】1,679件 【H28年度】1,295件（12月末現在） ●常勤麻酔科医の確保などによる手術件数の増加 <ul style="list-style-type: none"> 【H25年度】641件 【H26年度】806件 【H27年度】823件 【H28年度】670件（12月末現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ■急性期病院としての医療機能の更なる向上に向けた救急医療体制の充実
<ul style="list-style-type: none"> ●がん診療体制の充実（地域がん診療病院指定に向けた取組） 	<ul style="list-style-type: none"> ●有資格者の養成 <ul style="list-style-type: none"> がん相談員2名 院内がん登録者1名 ●がん診断機能の向上 <ul style="list-style-type: none"> 凍結組織切片作製装置の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ■指定要件の充足に向けた診療機能の充実
<ul style="list-style-type: none"> ●循環器疾患治療の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●循環器科医師の複数名確保による診療機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> H28.7.1 3名 	
<ul style="list-style-type: none"> ●DPC病院への移行 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成28年4月にDPC病院に移行 	

榑多けんみん病院

主な取組	成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ●がん診療機能の充実（地域がん診療連携拠点病院の指定更新に向けた取組） 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成26年度更新 	<ul style="list-style-type: none"> ■がん診療機能の更なる充実・強化 ■病理医の継続確保
<ul style="list-style-type: none"> ●地域医療支援病院指定に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●紹介率の推移 <ul style="list-style-type: none"> 【H25年度】34.4% 【H26年度】29.7% 【H27年度】30.8% 【H28年度】30.8%（12月末現在） ●逆紹介率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ■紹介率・逆紹介率の向上 ■地域連携パスの充実と活用の拡大

	<p>【H25年度】45.8% 【H26年度】59.5% 【H27年度】63.1% 【H28年度】61.8%（12月末現在）</p> <p>●地域連携パスの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中（病病連携）パス 【H25年度】255件 【H26年度】300件 【H27年度】255件 【H28年度】164件（12月末現在） ・大腿骨頸部骨折パス 【H25年度】208件 【H26年度】211件 【H27年度】202件 【H28年度】139件（12月末現在） 	
--	--	--

（２）第三者機能評価の認定取得

主な取組	成果	課題
●病院機能評価の認定取得	●あき総合病院 H27年度取得 ●幡多けんみん病院 H28年度取得（見込）	■病院機能の維持・向上

（３）地域連携の推進

あき総合病院

主な取組	成果	課題
●院内の体制充実 ●地域の医療機関、福祉介護施設等との連携強化	●医療ソーシャルワーカー（MSW）の増員 H25.4 2名体制→H28.4 5名体制 ●医師会等への出席による「顔の見える関係づくり」の実施 地域連携懇談会（ち・れん・こん）の実施（H26年度～）	■地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた機能の充実・強化

幡多けんみん病院

主な取組	成果	課題
●医師会・地域の医療機関との関係強化 ●地域連携機能の強化	●医師会訪問（H26年度 3回） 院長による医師会理事としての医師会との関係強化 ●地域連携パスワーキンググループの開催（年4回程度）	■地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた機能の充実・強化

（４）患者サービスの向上

主な取組	成果	課題												
●接遇の更なる向上	●医療事務受託業者の定期的な接遇チェック <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>H26年度</td> <td>H27年度</td> <td>H28年度</td> </tr> <tr> <td>あき</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>幡多</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>2回</td> </tr> </table>		H26年度	H27年度	H28年度	あき	1回	1回	1回	幡多	4回	4回	2回	<p>■委託業務の適正な執行管理による患者満足度の向上（継続）</p> <p>■職員の接遇意識の維持・向上（継続）</p>
	H26年度	H27年度	H28年度											
あき	1回	1回	1回											
幡多	4回	4回	2回											

	<ul style="list-style-type: none"> ●接遇研修の実施（毎年1回） ●各種調査 <ul style="list-style-type: none"> あき 患者待ち時間調査の実施 幡多 患者満足度調査の実施 	
●住民向け広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●広報活動内容 <ul style="list-style-type: none"> あき 「ふれあい医療教室」の実施（年3回） 広報誌発行（年3回程度） 幡多 「幡多ふれあい医療公開講座」の開催（年5回程度） 広報誌発行（年5回程度） 	

2 経営基盤の強化

(1) マネジメントの充実

主な取組	成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ●経営管理体制の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・経営幹部会議の活性化 ・病院及び本庁の経営管理能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●経営幹部会議の活性化 <ul style="list-style-type: none"> 毎月の収支の状況や患者数等の動向について、経営事業部から情報提供を行うことなどにより、病院と本庁間で経営課題を共有 	<ul style="list-style-type: none"> ■プロパー事務職員の専門性の向上 ■的確な経営分析を行うことができる体制づくり
<ul style="list-style-type: none"> ●事務部組織の再編 <ul style="list-style-type: none"> ・経営データの一元的管理 ・診療情報管理士の専門性の活用（幡多） 	<ul style="list-style-type: none"> ●「2課体制」から「1課体制」への再編を行うとともに、「事務部」から「経営事業部」へと名称変更 ●経営企画課と診療情報管理室の統合 	

(2) 収益の確保

あき総合病院

主な取組	成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ●一般病床の入院収益の増 ●診療報酬制度（施設基準）への適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な病床利用率の目標設定 <ul style="list-style-type: none"> ・一般病床利用率の目標と結果 【H26年度】80.0% → 81.3% 【H27年度】84.0% → 85.4% 【H28年度】86.9% → 84.7% (12月末現在) ・精神病床利用率の目標と結果 【H26年度】86.7% → 88.5% 【H27年度】86.7% → 88.2% 【H28年度】88.9% → 85.4% (12月末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ■質の高い医療の提供に向けたDPCデータの活用 ■病院特性を踏まえた診療報酬改定への迅速な対応

	<ul style="list-style-type: none"> ●診療報酬改定への適切な対応 改定時における最適な施設基準の届出 ●DPCデータ分析 DPCソフト導入（H26）による収入分析の実施 	
--	---	--

幡多けんみん病院

主な取組	成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ●一般病床の入院収益の増 ●診療報酬制度（施設基準）への適切な対応 ●コンサルタント導入 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成 26 年度に当初の想定を下回る病床利用率となったため、平成 27 年度に目標見直し <ul style="list-style-type: none"> ・一般病床利用率の目標と結果 【H26 年度】80.3% → 77.3% 【H27 年度】80.3% → 73.9% 【H28 年度】77.1% → 70.2% （12 月末現在） ●診療報酬改定への適切な対応 改定時における最適な施設基準の届出 ●DPCデータ分析 DPCソフト導入（H27）による収入分析を実施。 ●コンサルタント導入 平成 25～26 年度に委託。 経営分析手法等について助言を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■質の高い医療の提供に向けたDPCデータの活用 ■患者数の減少等への適切な対応

(3) 費用の適正化

主な取組	成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ●材料費 <ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリックへの切替促進 ・在庫数量の適正化 ・調達方法の見直し等による材料費の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ●ジェネリック（後発医薬品）への切替促進 <ul style="list-style-type: none"> H26 年度→H27 年度→H28 年度 あき 39.2% →70.7% →87.4% 幡多 51.5% →65.5% →82.9% （H28 年度は 12 月末時点） ●薬品や診療材料の使用状況を把握するため在庫管理システムの活用による在庫数量の適正化 ●県立病院間で連携した値引交渉 <ul style="list-style-type: none"> ・薬品値引率 【H25 年度】あき 9.55% 幡多 9.33% 【H26 年度】あき 12.11% 幡多 11.62% 【H27 年度】あき 12.38% 幡多 11.86% 	<ul style="list-style-type: none"> ■後発医薬品の使用促進による薬品費の更なる低減 ■効率的な在庫管理や値引交渉の継続による材料費の適正管理

(4) 未収金の縮減

主な取組	成果	課題
●不良債権化の防止	●誓約書の徴収及びクレジットカード決済の実施	■未収金マニュアルによる適正な管理（継続）
●悪質滞納者への対応強化	●回収委託の拡充 ・滞納者の状況に応じて、柔軟に回収委託を実施	■法的措置（支払督促等）の基準及び手続きの検討

(5) 資産管理の適正化

主な取組	成果	課題
●棚卸資産管理の改善 ・棚卸資産管理方法の見直し	●薬品及び診療材料の在庫管理システムを活用した棚卸の実施	■効率的な受払記録方法の検討
●施設の維持管理の適正化（幡多けんみん病院） ・設備の耐震性の確保 ・施設・設備の維持管理の適正化	●設備の耐震性の確保 ・設備耐震診断の実施 ・重要設備（配管・機器等）の耐震性向上に向けた据付・固定強化工事の実施 ・非常用自家発電装置のオーバーホールの実施 ●施設・設備の維持管理の適正化 ・施設設備契約の仕様見直しの実施	

(6) 遊休資産の売却

主な取組	成果	課題
●処分計画の着実な実施 （旧中央病院及び旧西南・宿毛病院資産）	●売却価格の見直し 売却価格の見直しを実施するも売却に至らなかったため、媒介及び先着順の売払いを実施し、一部売却 【平成 27 年度】宝永町医師公舎跡地 【平成 28 年度】愛宕山南町副院長公舎跡地 ●建物の解体 【平成 26 年度】 吸江看護師宿舎 建物付で売却完了 【平成 27 年度】 旧宿毛病院 解体完了 桜井町医師公舎 解体完了	■遊休資産の早期売却 ・桜井町医師公舎跡地 ・四万十市谷田医師公舎跡地 ・旧宿毛病院跡地

3 医師をはじめとする医療スタッフの確保

(1) 医師の確保

主な取組	成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ●高知大学医学部への訪問 ●健康政策部・高知医療再生機構との連携の強化 ●公募による病理医の確保（幡多けんみん病院） ●医師受入体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●医師確保の状況 H26.4.1 → H27.4.1 → H28.4.1 あき 24名 → 30名 → 33名 幡多 51名 → 47名 → 51名 ●個別課題に応じた医師確保 あき 常勤医の不在診療科の解消 脳神経外科 常勤1名 麻酔科 常勤1名 呼吸器科 常勤1名 幡多 がん診療体制の充実 放射線科 常勤2名体制 (平成26年度) 病理診断医 常勤2名体制 外科 常勤5名体制 (平成28年度) ●医療再生機構「ウェルカムネット」を通じた病理医公募の実施 ●経営事業部内に医師支援チーム設置 (平成26年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ■常勤医の不在診療科の解消 ■病理医の継続確保（幡多）

(2) 医師以外の医療スタッフの確保

主な取組	成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ●採用試験の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ●必要な人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・複数回の採用試験の実施 ・採用年齢の引上げ（看護師、助産師） 39歳→59歳 	<ul style="list-style-type: none"> ■助産師等の必要な医療人材の確保
<ul style="list-style-type: none"> ●応募者増への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●応募者増への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・PR冊子の作成 ・ホームページでの広報 ・学生実習の積極的受入れ ・病院見学の積極的受入れ ・就職説明会への参加 ・県内大学訪問による要請 	
<ul style="list-style-type: none"> ●少人数のコメディカル職種の採用 	<ul style="list-style-type: none"> ●業務の継続性の確保 臨床工学技士（あき） 作業療法士、管理栄養士（幡多） 言語聴覚士（両病院） 	

(3) 職員の処遇改善

主な取組	成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 医師受入体制の充実 ● 医師勤務環境の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営事業部内に医師支援チーム設置 (平成 26 年度) <再掲> ● 医師事務作業補助者の増員 H26. 4. 1→H28. 12. 1 (増員) あき 7 名 → 11 名 (+4) 幡多 9 名 → 11 名 (+2) ● 電子カルテシステムの導入・更新 あき 平成 26 年度開院時導入 幡多 平成 27 年度更新 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医師事務作業補助者の継続確保
<ul style="list-style-type: none"> ● 看護師業務の負担軽減、労働環境の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護補助者の増員 (人材確保が困難な状況があるため必ずしも増員につながっていない) H26. 4. 1→H28. 12. 1 あき (パート) 14 名 → 19 名 幡多 (臨時) 32 名 → 27 名 ● 新しい看護方式 (PNS) の試行 あき 平成 27 年度開始 幡多 平成 26 年度開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 看護補助者の継続確保

4 人材の育成

(1) 若手医師の養成

主な取組	成果	課題
●初期臨床研修の実施	●あき総合病院 基幹型臨床研修病院として研修開始（H28年度） （指定：H27.9.17付） ●研修医の受入 【H25年度】幡多 9人 【H26年度】幡多 8人 【H27年度】幡多 7人 【H28年度】あき 2人 幡多 7人	■医師の育成に向けた取組の強化
●後期研修の実施	●高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラムの開始（平成27年度） ●研修医の受入 【H27年度】2人 【H28年度】4人	
●卒前教育への協力	●学外実習生の積極的な受入れ ・あきH26 70人 H27 60人 H28 47人 ・幡多H26 34人 H27 41人 H28 52人 （H28年度は12月末時点） ●地域卒学生の受入れ ・幡多地域医療道場 毎年約30人受入	

(2) 看護師の専門性の向上

主な取組	成果	課題
●認定看護師等の充実	●認定看護管理者の養成 【H27年度】幡多 1人 ●専門・認定看護師等の養成 （内訳はP.33 [表5-21] 参照） 【H28年度】あき 6人 幡多 9人	■人材の確保及び専門性の向上
●助産師の養成	●助産師養成機関への派遣 4名 （H28年度）	

(3) コメディカルの専門性向上

主な取組	成果	課題
<p>●公費負担による医療提供に必要な資格取得の促進</p>	<p>【主な資格の抜粋】</p> <p>あき</p> <p>●薬剤師 外来がん治療認定薬剤師 1名 (H27年度)</p> <p>幡多</p> <p>●臨床検査技師 血管診療技師 1名(H26年度) 認定救急検査技師 1名(H27年度) 消化器内視鏡技師 1名(H28年度) 超音波検査士(消化器) 1名 (H28年度) 認定認知症領域検査技師 1名 (H28年度)</p> <p>●管理栄養士 静脈経腸栄養管理栄養士 1名 (H26年度) 静脈経腸栄養管理栄養士 1名 (H27年度)</p> <p>●診療放射線技師 X線CT認定技師 1名(H26年度)</p>	<p>■病院機能の向上に資する専門性の確保(継続)</p>

(4) 事務職員の専門性の向上

主な取組	成果	課題
<p>●「人材育成基本方針」の着実な実施(プロパー職員)</p>	<p>●知事部局が実施する新採研修、職位等に応じた研修への参加</p>	<p>■人材の育成に向けた研修体制の充実</p>

5 南海トラフ地震対策の充実・強化

(1) 災害時医療提供体制の充実

主な取組	成果	課題
●業務継続計画（BCP）の策定及び実効性の担保	●業務継続計画（BCP）の策定 あき H27年度策定 幡多 H26年度策定 ●実効性の担保 関係機関との合同災害訓練の実施	■業務継続計画（BCP）の実効性の担保 ・熊本地震の教訓を踏まえた「大きな揺れが繰り返す」ことを想定した対策の強化
●災害時備蓄の拡充	●災害時備蓄品の拡充 あき 飲料水、食糧及び燃料（各7日分）の確保（平成26年度） 幡多 飲料水及び食糧（各7日分）の確保（H26年度） 燃料タンク増設等による7日分の燃料の確保（H28年度）	■備蓄品の計画的な更新
●DMATの体制充実	●DMATの体制充実 あき 2チーム体制の整備（H26年度） 幡多 DMAT資器材（衛星携帯電話等）の拡充（H27年度）	

(2) 施設・設備・機器の再点検

主な取組	成果	課題
●災害時における燃料・水源の確保	●幡多 非常用自家発電装置及び燃料タンクの増設による発災後7日間の電源確保（H28年度） 井水ポンプへの非常用発電装置及び井水浄化装置の設置（H28年度）	■設備の定期点検による適正管理

(3) 診療情報の保全

主な取組	成果	課題
●診療情報の県外保全	●県外バックアップ環境の構築 あき H26年度 幡多 H26年度	■バックアップ環境の適正管理

収支計画

1 収支計画における目標の達成状況

経営目標

平成 26 年度に達成した「病院事業全体での経常黒字」を継続し、次期計画におけるステップアップにつなげる。

平成 26 年度、平成 27 年度は病院事業全体での経常黒字を達成したものの、平成 28 年度はその継続が困難な状況となっている。

2 収支計画（2病院計）

- ・平成 26 年度は、新会計基準の適用に伴い、企業債の償還元金に係る一般会計からの繰入金のうち、減価償却費に相当する額を医業外収益に計上を行ったことなどもあり、経常収支は黒字となった。
- ・平成 27 年度は、あき総合病院の医師確保等による医業収益の増加などもあり経常収支の黒字を維持することができたものの、平成 28 年度は幡多けんみん病院の医業収益が落ち込んだことなどから、経常収支の黒字を継続することが困難な状況となっている。

[表 2 - 1] 2病院計の収支状況

(単位：百万円)

	H26年度			H27年度			H28年度		
	計画	実績	差	計画	実績	差	計画	見込	差
収益計	13,211	14,437	1,226	13,509	13,865	356	13,817	13,339	△ 478
医業収益	10,395	10,184	△ 211	10,651	10,435	△ 216	10,647	10,179	△ 468
医業外収益	2,625	3,079	454	2,751	3,165	414	3,170	3,158	△ 12
特別利益	191	1,175	984	107	265	158	0	2	2
費用計	19,088	17,783	△ 1,305	14,382	14,210	△ 172	13,878	13,763	△ 115
医業費用	13,248	12,159	△ 1,089	12,958	12,490	△ 468	13,070	12,939	△ 131
医業外費用	827	768	△ 59	871	853	△ 18	729	746	17
特別損失	5,013	4,856	△ 157	553	867	314	79	79	0
経常収支	△ 1,055	335	1,390	△ 427	256	683	18	△ 348	△ 366
単年度損益	△ 5,877	△ 3,346	2,531	△ 873	△ 345	528	△ 61	△ 424	△ 363
収益的資金収支	190	878	688	212	779	567	531	226	△ 305

注) 項目ごとに端数処理しているため、合計が一致しないことがある。

注) H28 年度は 12 月末実績に基づく決算見込みとなっている。

2 病院別の収支計画

あき総合病院

- ・平成 26 年度は、新会計基準の適用に伴い、一般会計からの繰入金のうち、減価償却費に相当する額を医業外収益に計上を行ったことなどにより、経常収支は約 0.6 億円の赤字で収まった。
- ・平成 27 年度は、1 日平均の入院患者数やその診療単価が順調に伸びたことなどにより、医業収益が増加した結果、経常収支は約 0.6 億円の黒字を達成することが出来た。
- ・平成 28 年度は、医業収益についてはほぼ前年度並みと見込まれるものの、職員の退職に伴う給与費等の医業費用が増加したことなどもあり、経常収支は約 1.1 億円の赤字となる見通しである。

[表 2-2] あき総合院の収支状況

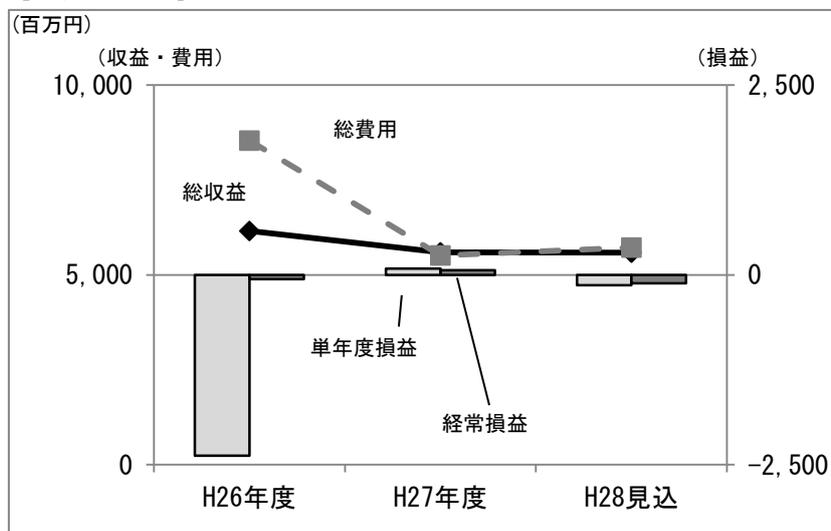
(単位：百万円)

	H26年度			H27年度			H28年度		
	計画	実績	差	計画	実績	差	計画	見込	差
収益計	4,953	6,157	1,204	5,206	5,595	389	5,591	5,585	△ 6
医業収益	3,772	3,628	△ 144	3,941	4,065	124	4,064	4,061	△ 3
医業外収益	1,181	1,369	188	1,264	1,476	212	1,527	1,523	△ 4
特別利益	0	1,160	1,160	1	54	53	0	1	1
費用計	9,174	8,538	△ 636	5,766	5,512	△ 254	5,680	5,720	40
医業費用	5,409	4,770	△ 639	5,392	5,151	△ 241	5,367	5,399	32
医業外費用	329	284	△ 45	357	325	△ 32	278	296	18
特別損失	3,436	3,484	48	17	36	19	35	25	△ 10
経常収支	△ 785	△ 57	728	△ 544	64	608	△ 54	△ 111	△ 57
単年度損益	△ 4,221	△ 2,381	1,840	△ 560	83	643	△ 89	△ 135	△ 46
収益的資金収支	△ 240	211	451	△ 280	312	592	164	140	△ 24

注) 項目ごとに端数処理しているため、合計が一致しないことがある。

注) H28 年度は 12 月末実績に基づく決算見込みとなっている。

[グラフ 2-1]



幡多けんみん病院

- ・平成 26 年度は、新会計基準の適用に伴い、一般会計からの繰入金のうち、減価償却費に相当する額を医業外収益に計上を行ったことなどにより、経常収支は約 3.9 億円の黒字となった。
- ・平成 27 年度は、入院・外来ともに患者数などが減少し、医業収益が落ち込んだものの、医業費用等がほぼ前年度並みとなった結果、経常収支は約 1.9 億円の黒字で収まった。
- ・平成 28 年度は、医業収益の落ち込みに加え、給与費等の医業費用の増加などもあり、経常収支は約 2.4 億円の赤字となる見通しである。

[表 2-3] 幡多けんみん病院の収支状況

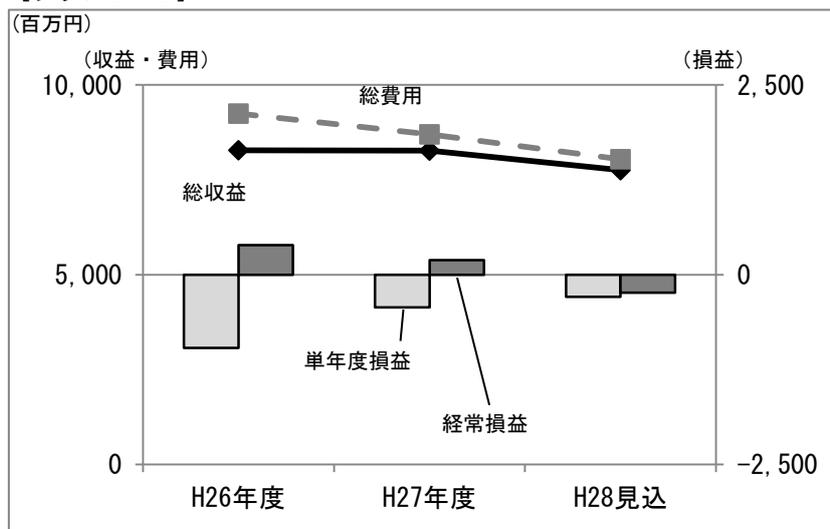
(単位：百万円)

	H26年度			H27年度			H28年度		
	計画	実績	差	計画	実績	差	計画	見込	差
収益計	8,258	8,280	22	8,303	8,270	△ 33	8,226	7,754	△ 472
医業収益	6,623	6,556	△ 67	6,710	6,370	△ 340	6,583	6,118	△ 465
医業外収益	1,444	1,710	266	1,487	1,689	202	1,643	1,635	△ 8
特別利益	191	15	△ 176	106	212	106	0	1	1
費用計	9,914	9,245	△ 669	8,616	8,698	82	8,198	8,043	△ 155
医業費用	7,839	7,389	△ 450	7,566	7,339	△ 227	7,703	7,540	△ 163
医業外費用	498	484	△ 14	514	528	14	451	450	△ 1
特別損失	1,577	1,372	△ 205	536	831	295	44	53	9
経常収支	△ 270	392	662	117	192	75	72	△ 237	△ 309
単年度損益	△ 1,656	△ 965	691	△ 313	△ 428	△ 115	28	△ 289	△ 317
収益的資金収支	430	667	237	492	466	△ 26	367	86	△ 281

注) 項目ごとに端数処理しているため、合計が一致しないことがある。

注) H28 年度は 12 月末実績に基づく決算見込みとなっている。

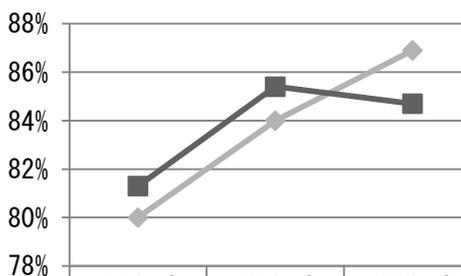
[グラフ 2-2]



【参考】 * H28 年度は 12 月末現在の数値。

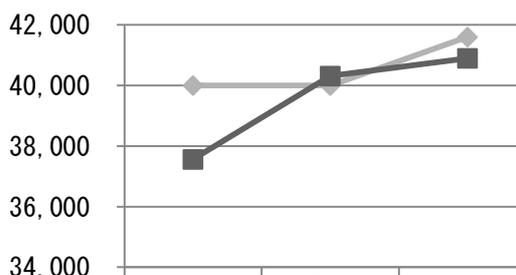
あき総合病院（一般科）

[グラフ 2-3] 病床利用率（結核除く）



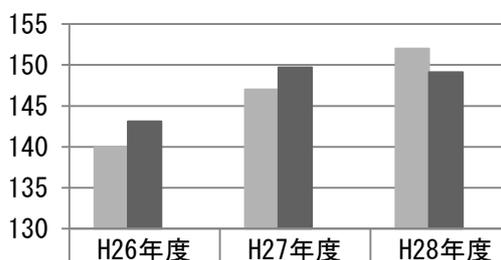
	H26年度	H27年度	H28年度
◆ 計画	80.0%	84.0%	86.9%
■ 実績	81.3%	85.4%	84.7%
差	1.3%	1.4%	△2.2%

[グラフ 2-4] 入院診療単価



	H26年度	H27年度	H28年度
◆ 計画	40,000	40,000	41,600
■ 実績	37,562	40,313	40,899
差	△ 2,438	313	△ 701

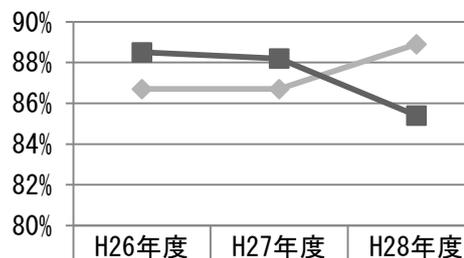
[グラフ 2-5] 1日平均入院患者数



	H26年度	H27年度	H28年度
■ 計画	140.0	147.0	152.0
■ 実績	143.1	149.7	149.1
差	3.1	2.7	△ 2.9

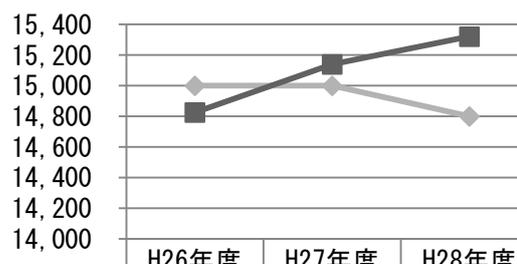
あき総合病院（精神科）

[グラフ 2-6] 病床利用率



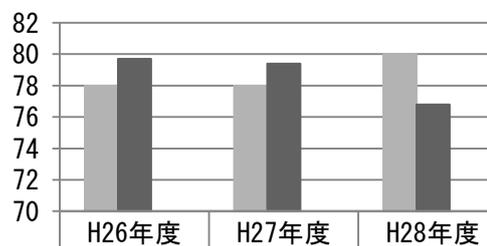
	H26年度	H27年度	H28年度
◆ 計画	86.7%	86.7%	88.9%
■ 実績	88.5%	88.2%	85.4%
差	1.8%	1.5%	△3.5%

[グラフ 2-7] 入院診療単価



	H26年度	H27年度	H28年度
◆ 計画	15,000	15,000	14,800
■ 実績	14,826	15,140	15,321
差	△ 174	140	521

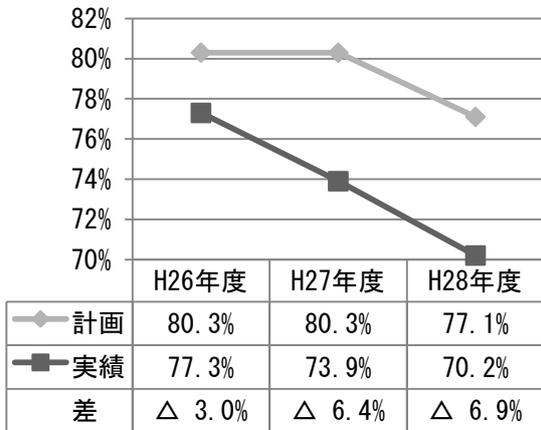
[グラフ 2-8] 1日平均入院患者数



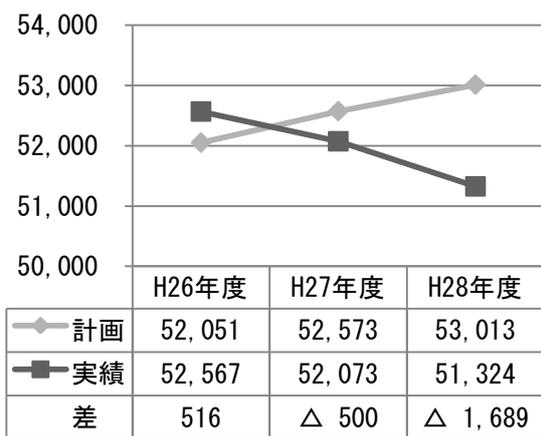
	H26年度	H27年度	H28年度
■ 計画	78.0	78.0	80.0
■ 実績	79.7	79.4	76.8
差	1.7	1.4	△ 3.2

幡多けんみん病院

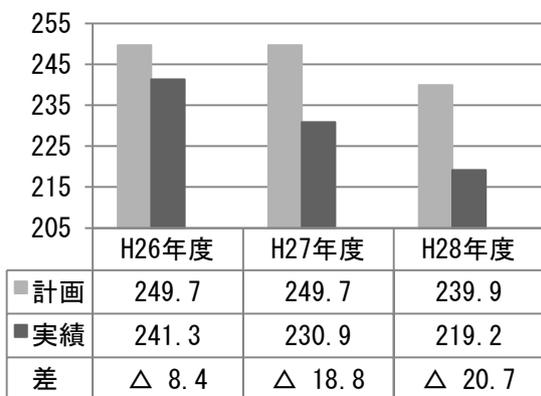
[グラフ2-9] 病床利用率（結核除く）



[グラフ2-10] 入院診療単価



[グラフ2-11] 1日平均入院患者数



第3 目指す目標及び重点取組項目

1 目標

地域生活(QOL)を支える中核病院として、地域の医療機関等との連携のもと、質の高い医療の持続的な提供が可能となる健全経営を目指す！

2 重点取組項目

(1) 県民が地域地域で安心して住み続けられる医療提供体制の整備！

- ①地域医療構想を踏まえた県立病院の果たすべき役割の発揮
- ②地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた機能の充実・強化

(2) 医療機能の向上による経営の健全化！

質と効率性の高い医療の提供につながる経営改善目標の設定

(3) 医療人材の安定確保！

医師等の医療スタッフを確保・育成するための取組の強化

(4) 南海トラフ地震対策の充実・強化！

熊本地震等を踏まえた第3期南海トラフ地震対策行動計画の見直し等への対応

[図3-1]



第4 各病院の重点取組及び指標

あき総合病院

1 基本姿勢

安芸地域の医療ニーズを踏まえた急性期医療を担う中核病院として、質の高い医療の安定的な提供と地域の医療機関等との連携を図ることにより、人々の心とからだの健康を支えていく。

2 重点取組項目

(1) 県民が地域地域で安心して住み続けられる医療提供体制の整備！

① 地域医療構想を踏まえた県立病院の果たすべき役割の発揮

ア 急性期病院としての医療機能の充実・強化

(ア) 地域医療構想で示された必要病床数への対応 P21

(イ) 救急医療体制の充実 P23

(ウ) 地域がん診療病院の指定に向けた診療機能の充実 P24

イ 地域医療を支えるためのネットワークづくり

医師の派遣・応援の仕組みづくり P26

② 地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた機能の充実・強化

ア 地域包括ケア病棟を活用した在宅医療等との連携の強化 P28

イ 介護・福祉分野等との連携の推進 P28

(2) 医療機能の向上による経営の健全化！

質と効率性の高い医療の提供につながる経営改善目標の設定 P30

(3) 医療人材の安定確保！

医師等の医療スタッフを確保・育成するための取組の強化 P32

(4) 南海トラフ地震対策の充実・強化！

熊本地震等を踏まえた第3期南海トラフ地震対策行動計画の見直し等への対応 P35

3 指標

[表4-1]

	第5期計画実績			第6期計画目標					
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度		
医療機能	救急車受入件数	1,683	1,679	1,716	1,724	1,732	1,740	1,748	
	新入院患者数	2,977	3,357	3,206	3,206	3,206	3,206	3,206	
	手術件数	806	823	867	875	883	891	899	
経営指標	医業収支比率	76.1%	78.9%	75.2%	74.2%	75.7%	78.4%	80.4%	
	経常収支比率	98.9%	101.2%	98.1%	98.3%	98.8%	100.4%	100.9%	
	一般	病床利用率(結核除く)	81.3%	85.4%	85.2%	85.2%	85.2%	85.2%	85.2%
		1日平均入院患者数	143.1	149.7	149.1	149.1	149.1	149.1	149.1
		入院診療単価	37,562	40,313	42,054	42,842	43,521	44,211	44,901
	精神	病床利用率	88.5%	88.2%	85.4%	85.4%	85.4%	85.4%	85.4%
		1日平均入院患者数	79.7	79.4	76.8	76.8	76.8	76.8	76.8
		入院診療単価	14,826	15,140	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491
	材料費比率	17.5%	18.9%	18.2%	19.0%	18.1%	18.1%	18.1%	
後発医薬品使用率	39.2%	70.7%	87.4%	87.9%	88.4%	88.9%	89.4%		

* 病床数は稼働病床数

H28年度は12月末実績に基づく見込み数値である。

幡多けんみん病院

1 基本姿勢

幡多地域の急性期医療を担う中核病院として、質の高い医療サービスの水準を維持するとともに、地域の医療機関等との一層の連携強化を図ることにより、地域完結型の医療提供体制の構築を目指していく。

2 重点取組項目

(1) 県民が地域地域で安心して住み続けられる医療提供体制の整備！

- ① 地域医療構想を踏まえた県立病院の果たすべき役割の発揮
 - ア 急性期病院としての医療機能の充実・強化
 - (ア) 地域医療構想で示された必要病床数への対応 P22
 - (イ) 地域がん診療連携拠点病院としての診療機能の充実 P25
 - イ 地域医療を支えるためのネットワークづくり
 - (ア) 医師の派遣・応援の仕組みづくり P26
 - (イ) 地域医療支援病院の指定に向けた機能の充実 P27
- ② 地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた機能の充実・強化
 - ― 介護・福祉分野等との連携の推進 P28

(2) 医療機能の向上による経営の健全化！

- ― 質と効率性の高い医療の提供につながる経営改善目標の設定 P30

(3) 医療人材の安定確保！

- ― 医師等の医療スタッフを確保・育成するための取組の強化 P32

(4) 南海トラフ地震対策の充実・強化！

- ― 熊本地震等を踏まえた第3期南海トラフ地震対策行動計画の見直し等への対応 P35

3 指標

[表 4-2]

		第5期計画実績			第6期計画目標			
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
医療機能	新入院患者数	6,324	6,124	5,695	5,891	5,983	6,098	6,181
	紹介率	29.7%	30.8%	30.8%	33.8%	36.8%	39.8%	42.8%
	逆紹介率	59.5%	63.1%	61.8%	63.8%	65.8%	67.8%	70.0%
経営指標	医業収支比率	88.7%	86.8%	81.2%	80.6%	81.9%	82.6%	83.6%
	経常収支比率	105.0%	102.4%	97.0%	97.6%	98.0%	98.7%	99.3%
	病床利用率(結核除く)	77.3%	73.9%	72.3%	73.7%	74.9%	76.1%	77.3%
	1日平均入院患者数	241.3	230.9	224.7	229.2	232.8	236.6	240.5
	入院診療単価	52,567	52,073	51,663	51,693	51,800	51,813	52,097
	材料費比率	21.9%	21.5%	20.7%	21.2%	20.6%	20.6%	20.6%
	後発医薬品使用率	51.5%	65.5%	82.9%	83.9%	84.9%	85.9%	86.9%

* 病床数は稼働病床数

H28年度は12月末実績に基づく見込み数値である。

第5 重点取組項目に基づく個別の取組

(1) 県民が地域地域で安心して住み続けられる医療提供体制の整備！

①地域医療構想を踏まえた県立病院の果たすべき役割の発揮

ア 急性期病院としての医療機能の充実・強化

(ア) 地域医療構想で示された必要病床数への対応

あき総合病院

現 状

a 地域医療構想における安芸保健医療圏の急性期必要病床数

- ・平成27年の急性期病床数は290床であり、地域医療構想で示された平成37年の必要病床数199床を上回っている。

[表5-1] 地域医療構想の必要病床数（安芸保健医療圏の急性期病床）

医療機能	H37年 必要病床数	H27年 病床機能報告結果	(参考) あき総合病院
急性期	199	290	175

b 安芸保健医療圏の急性期病床と救急車受入状況

- ・あき総合病院は圏域の急性期病床数の半数以上を占めており、救急車受入件数を見ても圏域の急性期医療において大きな役割を果たしている。

[表5-2] 平成27年病床機能報告の内容抜粋（安芸保健医療圏の急性期病床）

	医療機関数	病床数*1	救急車受入件数*2
あき総合病院	1	175	1,701
その他病院	2	92	530
診療所	2	23	0
合計	5	290	2,231

*1 あき総合病院の病床数には地域包括ケア病床45床（H27年8月稼働）を含む。

*2 救急車受入件数はH26年7月1日～H27年6月30日の件数である。

課 題

○安全・安心で質の高い急性期の医療提供体制の整備

- ・地域の急性期医療を担う中核病院として、今後とも安全・安心で質の高い医療提供体制の整備・確保が求められる。

○医療機能の分化・連携の推進

- ・地域で安心して住み続けられる医療提供体制の整備に向けて病床機能の充実・強化を図る。

今後の取組

○地域における今後の医療ニーズを踏まえた病床機能の検討

- ・急性期医療への対応を中核とした県立病院としての果たすべき役割を踏まえ、医療機能や病床規模等を検討する。
 - ① 在宅医療を支援する急性期後の回復期ケア等のために必要となる地域包括ケア病床の確保
 - ② 新たな地域精神保健医療体制の方向付け等を踏まえた精神科病床の規模

現 状

○地域医療構想における幡多保健医療圏の急性期必要病床数

- ・平成 27 年の急性期病床数は 669 床であり、地域医療構想で示された平成 37 年の必要病床数 331 床のおよそ 2 倍の状況にある。

[表 5-3] 地域医療構想の必要病床数（幡多保健医療圏の急性期病床）

医療機能	H37 年 必要病床数	H27 年 病床機能報告結果	(参考) 幡多けんみん病院
急性期	331	669	324

- ・幡多けんみん病院は圏域の急性期病床数の半数近くを占めており、救急車は圏域の件数の 6 割以上を受け入れている。

[表 5-4] 平成 27 年病床機能報告の内容抜粋（幡多保健医療圏の急性期病床）

	医療機関数	病床数	救急車受入件数*1
幡多けんみん病院	1	324	2,514
その他病院	6	291	1,499
診療所	3	54	0
合計	10	669	4,013

*1 救急車受入件数は H26 年 7 月 1 日～H27 年 6 月 30 日の件数である。

課 題

○急性期病院として必要な病床数の確保

- ・救急医療や手術等の急性期医療を担う地域の中核病院として、地域で完結できる医療を提供するために必要となる病床数を確保する。

今後の取組

○必要な病床数に合わせた病棟再編の検討

- ・地域における今後の医療ニーズを踏まえ、病棟における診療科の再編・見直しを行うとともに、診療科の構成に応じた適切な看護体制等を構築することにより、安全・安心で質の高い医療の確保に向けた効率的な病棟運営を行う。

(イ) 救急医療体制の充実

あき総合病院

現 状

a 救急患者の受入

- 救急患者の受入れ体制が強化され、受入件数は順調に伸びている。

[表5-5] 救急患者の受入件数

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度*1
救急車受入件数	1,350	1,683	1,679	1,295
ヘリ受入件数	0	11	9	18

*1 H28 年度は 12 月末現在の件数である。

b 手術件数の推移

- 医療スタッフの充実が図られ、手術件数が着実に増加している。

[表5-6] 手術件数及び全身麻酔件数

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度*1
手術件数	641	806	823	670
うち全身麻酔件数	184	353	393	324

*1 H28 年度は 12 月末現在の件数である。

課 題

○救急医療体制の更なる充実

- 急性期医療機能の強化に向け、救急医療体制の充実を図るための医師確保が喫緊の課題となっている。

今後の取組

○救急医療や手術に携わる医師の増員

- 救急医療や手術に携わる医師の増員に向けて、高知大学医学部への医師派遣要請を継続する。
- 健康政策部や高知医療再生機構等との連携を強化する。
- 必要に応じて医師の公募を行う。
- 専門医制度における研修医等の受入体制を強化する。

(ウ) 地域がん診療病院の指定に向けた診療機能の充実

あき総合病院

現 状

a がん診療病院

- ・ 安芸保健医療圏は、「地域がん診療連携拠点病院」「地域がん診療病院」のない、いわゆるがん治療の空白地となっており、患者の多くが中央保健医療圏の医療機関を受診している。

b 指定に向けた取組（平成 28 年度）

- ・ 指定要件の充足に必要な有資格者の養成（がん相談員：2名、院内がん登録実務者：1名）を行った。
- ・ 凍結組織切片作製装置を導入した。

課 題

○指定に向けた診療機能の充実

- ・ 指定要件の充足に向けて診療機能の充実を図る。

今後の取組

a がん診療に携わる医師の増員

- ・ がん診療に携わる医師の増員に向けて、高知大学医学部への医師派遣要請を継続する。
- ・ 健康政策部や高知医療再生機構等との連携を強化する。
- ・ 必要に応じて医師の公募を行う。

b 指定要件の充足に向けたがん診療機能の充実

- ・ がん診療連携拠点病院と定期的な合同カンファレンスを実施する。
- ・ がんの院内パス及び地域連携パスを整備する。
- ・ 緩和ケアチームの充実及びがん相談支援センターの設置に向けた体制を整備する。

(イ) 地域がん診療連携拠点病院としての診療機能の充実

幡多けんみん病院

現 状

a 地域がん診療連携拠点病院の指定

- 平成 24 年 4 月 1 日付で地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、平成 27 年 4 月 1 日付で指定が更新された。

b 外来化学療法件数の推移

- 平成 26 年度は外科の医師数の減少により外来化学療法件数が減少したものの、平成 28 年度は外科医師数が増加し、外来化学療法の件数も回復傾向にある。

[表 5 - 7] 外来化学療法件数

H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度*1
2,221	1,733	1,711	1,300

*1 H28 年度は 12 月末現在の件数である。

課 題

a がん診療機能の更なる充実・強化

- がん診療に携わる医師の増員を図ることにより、診療機能を充実・強化させる。

b 病理医の継続確保

- 全国的に不足している病理医を継続して確保する。

今後の取組

○がん診療に携わる医師の増員、病理医の充実

- がん診療に携わる医師の増員に向けて、高知大学医学部への医師派遣要請を継続する。
- 健康政策部や高知医療再生機構等との連携を強化する。
- 必要に応じて医師の公募を行う。

イ 地域医療を支えるためのネットワークづくり

(ア) 医師の派遣・応援の仕組みづくり

両病院

現 状

- 人口の減少や医師の高齢化等により医療機関が撤退等を余儀なくされる地域が出てきている。

a ヘき地医療への支援

- ・ 県立病院は、へき地医療拠点病院として、無医地区巡回診療やへき地診療所への代診派遣を実施している。

[表5-8] 無医地区巡回診療の実施（平成27年度）

病院	地区数	診療回数
あき	3	24
幡多	1	10

[表5-9] へき地診療所への代診派遣（平成28年度）

病院	診療所	頻度
あき	馬路村立馬路診療所	不定期

b 市町村立診療所に対する診療応援

- ・ 市町村からの依頼に応じて、診療応援を実施している。

[表5-10] 診療応援の実施状況（平成28年度）

病院	診療所	頻度
あき	室戸市立室戸岬診療所	月2回
幡多	宿毛市立沖の島へき地診療所	月1回
	大月町国民健康保険大月病院	月3回

課 題

- 県立病院を中核とした地域における医療提供体制の整備・確保に向けたネットワークづくり

- ・ 県（健康政策部）は高知大学医学部との連携強化を図る中で、地域の中核病院に常勤医師を派遣し、そこから地域の医療機関に医師を派遣する仕組みづくりを検討している。
- ・ 地域の中核病院である県立病院は、地域の医療機関や医師の派遣機関等との緊密なネットワークの構築などを通じて、住民が地域地域で安心して医療サービスを受けられるよう、地域における医療提供体制の整備・確保の面で、大きな役割を果たすことが期待されている。

今後の取組

a 健康政策部との連携による医師派遣の仕組みづくり

- ・ 地域の中核病院である県立病院から地域の医療機関に医師を派遣するためのしっかりとした仕組みを構築する。

b 高知大学医学部等と連携した県立病院における医師の養成体制の整備

- ・ 高知大学や健康政策部等との連携強化を図り、専門研修医等を積極的に受け入れるための体制を整備する。

(イ) 地域医療支援病院の指定に向けた機能の充実

幡多けんみん病院

現 状

a 紹介率及び逆紹介率の動向

- ・ 指定要件の一つである逆紹介率が伸びてきている一方で、紹介率の方は依然として厳しい状況にある。

[表5-11] 紹介率及び逆紹介率の推移

種類	要件	H25	H26	H27	H28
紹介率	50%以上	34.4%	29.7%	30.8%	30.8%
逆紹介率	70%以上	45.8%	59.5%	63.1%	61.8%

*H28年度は12月末現在

b 地域連携パスの活用状況

- ・ 活万件数は、概ね順調に推移している

[表5-12] 主な地域連携パスの活万件数

種類	H25	H26	H27	H28
脳卒中（病病連携）	255	300	255	164
大腿骨頸部骨折	208	211	202	139
胃がん	3	4	2	0
大腸がん	1	2	0	3

*H28年度は12月末現在

課 題

○紹介率、逆紹介率の向上による地域医療支援病院の指定

- ・ 紹介率、逆紹介率の更なる向上につながる、地域の医療機関等との連携強化

○地域連携パスの充実と活用の拡大

今後の取組

a 紹介率の向上につながる取組の強化

- ・ 市町村や訪問看護事業者等といった地域において在宅生活を支える関係機関との連携強化による療養環境の整備
- ・ ICT（情報通信技術）などを活用した診療情報の共有による医療機関等との連携強化

b 地域連携パスの活用拡大に向けた取組の強化

- ・ 脳卒中、大腿骨頸部骨折以外に係る疾患への地域連携パスの活用拡大

②地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた機能の充実・強化

ア 地域包括ケア病棟を活用した在宅医療等との連携の強化（あき総合病院） イ 介護・福祉分野等との連携の推進

両病院

現 状

a 保健医療圏ごとの慢性期病床数

- ・ 65 歳以上人口 10 万人当たりの慢性期病床数は、安芸保健医療圏が 1,181 床と県内で最も少なく、幡多保健医療圏は 1,684 床と県内で 2 番目に少ない状況にある。

[表 5-13] 二次保健医療圏別の慢性期病床数（H27 年度病床機能報告）

	安芸	中央	高幡	幡多
全病床数	235	5,674	419	554
65 歳以上人口 10 万人当たり	1,181	3,506	1,872	1,684

*65 歳以上人口は H27. 10. 1 国勢調査より

b 保健医療圏ごとの訪問看護事業者数

- ・ 65 歳以上人口 10 万人当たりの訪問看護事業者数は、安芸保健医療圏が 126 か所と県内で最も少なく、幡多保健医療圏は 204 か所と県内で最も多い状況にある。

[表 5-14] 二次保健医療圏別の全介護事業者数と訪問看護事業者数（H28 年 7 月 1 日時点）

	安芸	中央	高幡	幡多
全介護事業者数	589	5,978	667	1,091
65 歳以上人口 10 万人当たり	2,961	3,694	2,980	3,317
訪問看護事業者数	25	321	31	67
65 歳以上人口 10 万人当たり	126	198	139	204

*高知県高齢者福祉課作成「介護保険サービス提供事業者一覧（H28. 7. 1 時点）」より

*65 歳以上人口は H27. 10. 1 国勢調査より

c 医療・介護・生活支援等を推進するための取組

- ・ 入退院支援センターの設置（幡多けんみん病院：平成 28 年度）
- ・ 地域連携懇談会の開催（あき総合病院）

H26	H27	H28
1 回	—	1 回

- ・ 幡多地域医療連携フォーラムの開催（幡多けんみん病院）

H26	H27	H28
1 回	1 回	1 回

課 題

○市町村や地域の介護・福祉サービス事業者等との連携の強化

- ・ 患者さんが住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう退院後の生活や療養を支援するため、市町村や地域の介護・福祉サービス事業者等との連携を強化するとともに、必要に応じて支援病床としての機能を発揮する。

今後の取組

地域包括支援センターや介護事業者等とのネットワークづくり

- ・ 高知医療介護情報連携システムの活用による在宅療養の支援（あき総合病院）
- ・ 地域での円滑な療養生活の実現に向けた市町村や訪問看護事業者等との定期的な意見交換
- ・ 退院後の円滑な生活を支える介護サービス等の確保に関して、介護支援専門員等と共同した相互の情報提供等を実施（介護支援連携指導料の算定）
- ・ 在宅生活に復帰するための支援や容体悪化時の緊急入院の受入など、地域包括ケア病棟の機能を活用した安全・安心な在宅療養生活への支援（あき総合病院）

(2) 医療機能の向上による経営の健全化！

両病院

質と効率性の高い医療の提供につながる経営改善目標の設定

現 状

a 包括評価制度（DPC）請求の開始

- ・ あき総合病院は平成 28 年度から、幡多けんみん病院は平成 21 年度から DPC 請求を開始した。

b 後発医薬品の使用率

- ・ 両病院とも後発医薬品の使用が進んでおり、平成 27 年度は全国平均の使用率を上回った。
- ・ 政府目標は平成 29 年度に 70%以上、平成 32 年度末までに 80%以上となっている。

[表 5-15] 後発医薬品の使用率（数量）

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度*2
あき総合病院	-	39.2%	70.7%	87.4%
幡多けんみん病院	21.5%	51.5%	65.5%	82.9%
全国*1	47.9%	56.4%	60.1%	-

*1 厚生労働省「調剤医療費（電算処理分）の動向」

*2 H28 年度は 12 月末現在

c 材料費比率

- ・ 両病院とも材料費比率は全国平均より低い。

[表 5-16] 材料費比率（対医薬収益）

	H25 年度	H26 年度	H27 年度
あき総合病院	20.9%	17.5%	18.9%
幡多けんみん病院	22.8%	21.9%	21.5%
全国(200~300床)*1	26.4%	26.9%	-
全国(300~400床)*1	26.9%	26.9%	-

*1 地方公営企業年鑑（都道府県立の一般病院）

課 題

a 収益の確保

- ・ 質の高い医療の提供に向けて包括評価制度（DPC）データを活用する。
- ・ 病床機能の検討や診療報酬の改定動向等を踏まえて適切な対応を行う。

b 患者満足度の維持・向上

- ・ 病院機能評価の認定継続に向け、病院機能の維持・向上を図る。
- ・ 委託業務の適正な執行管理に努め、サービスの水準を高めることにより患者満足度の向上を図る。
- ・ 患者さんへの接遇の更なる向上を図る。

c 計画的な投資による減価償却費の平準化

- ・ 収益とのバランスを考慮した計画的な投資を行う。

d 材料費（医薬品・診療材料）の適正管理

- ・ 後発医薬品の使用促進により薬品費比率の低減を図る。
- ・ 効率的な在庫数量の管理を行う。

e 未収金の縮減

- ・ 未収金発生未然防止に努めるとともに、発生した債権の適正な徴収・管理を行う。

今後の取組

a 収益の確保

- ・ 包括評価制度（DPC）分析ソフトの活用等により、質の高い医療の提供に向けた取組（DPC 機能評価係数の向上等）を検討する。
- ・ コンサルタント業者の活用等により収益確保策を検討する。（あき総合病院）

b 患者満足度の維持・向上

- ・ 病院機能の評価項目ごとに定期的な点検を行い、必要に応じて改善策を講じる。
- ・ 医事や給食に関する患者満足度調査を定期的実施し、改善策を検討する。
- ・ 接遇研修を継続して実施する。

c 収支計画を踏まえた投資計画の策定

- ・ 地域の医療ニーズ等を踏まえ、必要な増築等を検討する。（あき総合病院）
- ・ 医療情報の活用に向けた国の動向等を踏まえ、医療業務と経営の効率化といった視点から電子カルテの更新時期を検討する。

d 材料費の適正管理

- ・ 後発医薬品への切替えを促進する。
- ・ 在庫数量を定期的に把握し適正な管理を行う。
- ・ 棚卸資産の受払記録を効率的に作成する方法を検討する。

d 未収金の縮減

- ・ 制定が予定されている債権管理条例や未収金管理マニュアル等に基づき、未収金発生未然防止と適切な管理を徹底する。
- ・ 回収業務を効率的・効果的に行うため回収業務委託を継続する。

(3) 医療人材の安定確保！

両病院

医師等の医療スタッフを確保・育成するための取組の強化

現 状

<医師>

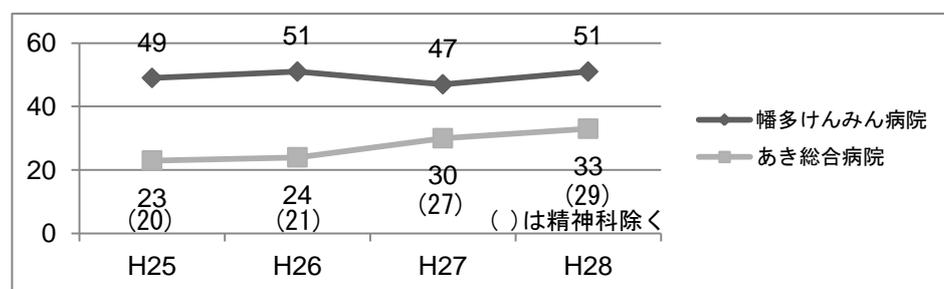
a 高知大学医学部への医師派遣要請

- ・ 高知大学医学部を定期的に訪問し、医師派遣を要請している。

[表 5-17] 常勤医師の確保状況

	H25 年 (4 月)	H28 年 (4 月)	備考
あき総合病院	23	33	(1) 常勤医の不在診療科の解消 ・ 呼吸器内科・脳神経外科 (麻酔科 H28. 7 月) (2) 診療科の増員 ・ 循環器内科ほか 4 診療科
幡多けんみん病院	49	51	○診療科の増員 ・ 小児科ほか 3 診療科

[グラフ 5-1] 常勤医師の推移



b 初期臨床研修の実施

- ・ 両病院とも基幹型臨床研修病院として研修医の受入を行っている。

[表 5-18] 初期臨床研修医数

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
あき総合病院 (H28~)	-	-	2
幡多けんみん病院 (H16~)	8	7	7

c 総合医・家庭医の養成

- ・ 平成 27 年度から高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラムに基づく研修を開始した。

[表 5-19] 総合医・家庭医後期研修医数

H27 年度	H28 年度
2	4

<看護師・助産師>

d 助産師の養成

- ・ 看護師の助産師養成機関への派遣による資格取得を通じて人材を養成している。

[表 5-20] 助産師養成機関への派遣人数

H23 年度	H24 年度	H28 年度
2	1	4

* 派遣開始年度により集計 (派遣期間は 1 年~2 年)

e 認定看護師等の養成

[表5-21] 認定看護師等の配置人数の推移（あき総合病院）

		H26年度	H27年度	H28年度
日本看護協会	認定看護管理者	1	1	1
	専門看護師	1	1	1
	がん看護	1	1	1
	認定看護師	1	3	3
	皮膚・排泄ケア	1	1	1
	緩和ケア			
	感染管理		1	1
	認知症看護		1	1
日本精神科看護協会	精神科認定看護師	2	2	2
	精神科身体合併症看護	1	1	1
	行動制限最小化看護	1	1	1

[表5-22] 認定看護師等の配置人数の推移（幡多けんみん病院）

		H26年度	H27年度	H28年度
日本看護協会	認定看護管理者		1	1
	認定看護師	9	9	9
	救急看護	1	1	1
	皮膚・排泄ケア	1	1	1
	集中ケア	1	1	1
	緩和ケア	2	2	2
	がん化学療法看護	2	2	2
	感染管理	1	1	1
	脳卒中リハビリテーション看護	1	1	1

<コメディカル>

f コメディカルの計画的採用

- ・ 提供すべき医療機能に応じて必要なコメディカルを計画的に採用している。

課題

a 医療人材の安定確保と育成

- ・ 地域の中核病院としての機能強化に向けて必要な医療人材の安定確保と育成を行う。

あき総合病院	①常勤医の不在診療科の解消 ②脳神経外科医の複数配置 ③地域がん診療病院の指定に向けた医師確保
幡多けんみん病院	①常勤医の不在診療科の解消 ②病理診断医の継続確保（常勤医2名体制の維持） ③地域がん診療連携拠点病院としての診療機能の充実に向けた医師確保（肺がん対応等の充実）

b プロパー事務職員の専門性の向上

- ・ プロパー事務職員の専門性の向上を図ることにより、経営の改善に資する。

今後の取組

- a **医師をはじめとする医療スタッフの確保**
 - ・ 高知大学医学部への医師派遣要請を継続する。(再掲)
 - ・ 健康政策部や高知医療再生機構等との連携を強化する。(再掲)
 - ・ 必要に応じて医師の公募を行う。(再掲)
 - ・ 看護師の助産師養成機関への派遣を通じた養成を継続する。
- b **医師の育成**
 - ・ 初期臨床研修医を確保する。
 - ・ 専門医制度における研修医の受入体制を整備する。(再掲)
- c **卒前教育への協力**
 - ・ 地域枠で入学した医学生を積極的に受け入れる。
 - ・ 学外実習や病院見学の積極的な受入を継続する。
- d **医師以外の医療スタッフの専門性の向上**
 - ・ 認定看護師等の病院にとって必要な資格取得については、公費負担により支援する取組を継続する。
- e **各種の業務補助者の配置等**
 - ・ 医師事務作業補助者や看護補助者等の適正配置を継続する。
 - ・ 薬剤管理委託業務の拡大を検討する。(幡多けんみん病院)
- f **プロパー事務職員の専門性の向上**
 - ・ 経営企画力の向上による経営改善
経営管理チーム(委託職員含む。)の設置を検討し、経営分析力を向上させる。
(あき総合病院)
 - ・ 経営企画担当の体制強化等により、経営分析力を向上させる。
(幡多けんみん病院)
 - ・ 病院組織のマネジメント力の向上に向けた研修体制の充実

(4) 南海トラフ地震対策の充実・強化！

熊本地震等を踏まえた第3期南海トラフ地震対策行動計画の見直し等への対応

両病院

現 状

県立病院は、災害時の救護活動の中心となる災害拠点病院の指定を受けている。

a 業務継続計画（BCP）の策定及び実効性の担保

- ・ あき総合病院 平成 27 年度策定
- ・ 幡多けんみん病院 平成 26 年度策定
- ・ 両病院 実行性の担保に向けた関係機関との合同災害訓練等の実施

b 職員安否システムの運用開始（平成 26 年度）

c 災害時備蓄品の拡充等

- ・ あき総合病院 飲料水、食糧及び燃料（各 7 日分）の確保（平成 26 年度）
- ・ 幡多けんみん病院 飲料水及び食糧（各 7 日分）の確保（平成 26 年度）
燃料タンクの増設等により 7 日分の燃料を確保（平成 28 年度）

- ※ 非常用自家発電装置のオーバーホール（平成 26 年度）
- ※ 非常用自家発電装置及び燃料タンクの増設（平成 28 年度）
- ※ 井水ポンプへの非常用発電機及び井水浄化設備の設置（平成 28 年度）

d DMATの体制充実

- ・ 両病院 DMAT 車両の整備（平成 25 年度）
- ・ あき総合病院 2 チーム体制の整備（平成 26 年度）
- ・ 幡多けんみん病院 DMAT 資器材（衛星携帯電話等）の拡充（平成 27 年度）

e 災害用備蓄倉庫及び災害棟の建設

- ・ 幡多けんみん病院 災害用備蓄倉庫の建設（平成 25 年度）
- ・ 両病院 災害対応職員用の休憩スペース兼備蓄倉庫としての災害棟を敷地内に整備（平成 28 年度）

課 題

○熊本地震を踏まえた第3期南海トラフ地震対策行動計画の見直しによる重点課題への対応

- ・ 「大きな揺れが繰り返す」という厳しい被害シナリオを想定した対策の強化

今後の取組

○業務継続計画（BCP）の実効性の担保

- ・ 医療機器等の安全性の確保
- ・ 重症患者の院内からの搬送体制の整備
- ・ 県内外からの応援医療チームの受入体制の整備
- ・ DMAT の活動で使用する資器材の整備

○災害訓練等の充実・強化

- ・ 災害発生時における勤務体制の相違を踏まえた訓練の実施
- ・ 患者収容能力の向上など、災害拠点病院としての役割・機能の発揮を想定した訓練の実施

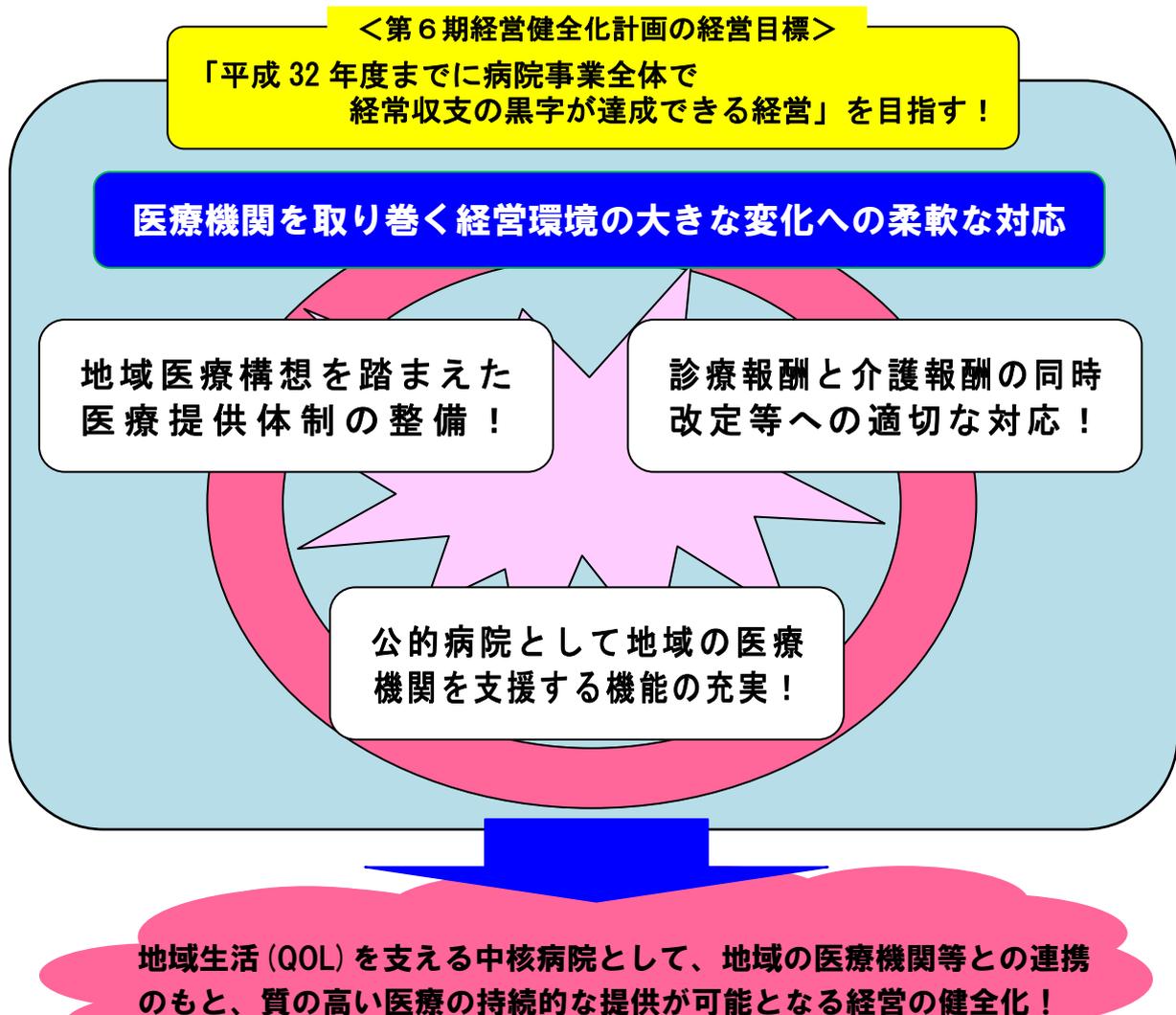
第6 収支計画

収支計画における経営目標

第6期経営健全化計画の計画期間中には、地域医療構想に基づく病床機能の分化・連携への適切な対応を図る必要がありますし、また他方で平成30年度には、診療報酬と介護報酬の同時改定が予定されるなど、医療機関を取り巻く経営環境には大きな状況の変化が見込まれており、今後の病院経営にとりましては、非常に困難な局面を迎えることを覚悟して置かなければなりません。

しかしながら、こうした中においても、県立病院は、県民の皆様が地域地域で安心して住み続けられる医療提供体制を整備のうえ、地域が必要とする医療サービスを持続的・安定的に提供していくという公的病院としての使命・役割を果たしていく必要があります。

このため、大変厳しい経営環境になることが予想される本計画の計画期間中においては、効率的かつ効果的な病院事業の運営に努めるとともに、経営の健全化に向けた不断の努力を継続することにより、「平成32年度までに病院事業全体で経常収支の黒字が達成できる経営」を目指して行くことといたします。



収支計画

2 病院計

第 6 期計画期間

(単位：百万円)

	H27 実績	H28 見込	H29 計画	H30 計画	H31 計画	H32 計画
収益合計	13,865	13,339	13,754	13,772	13,869	13,949
医業収益	10,435	10,179	10,372	10,537	10,705	10,876
医業外収益	3,165	3,158	3,380	3,233	3,162	3,071
特別利益	265	2	2	2	2	2
費用合計	14,210	13,763	14,127	14,080	14,029	14,031
医業費用	12,490	12,939	13,308	13,289	13,239	13,211
医業外費用	853	746	742	714	713	743
特別損失	867	79	77	77	77	77
経常収支	256	△ 348	△ 298	△ 233	△ 85	△ 7
単年度損益	△ 345	△ 424	△ 373	△ 308	△ 160	△ 82
収益的資金収支	779	226	313	300	360	310

注) 項目ごとに四捨五入した金額としているため、合計が一致しない場合がある。

あき総合病院

第 6 期計画期間

(単位：百万円)

	H27 実績	H28 見込	H29 計画	H30 計画	H31 計画	H32 計画
収益合計	5,595	5,585	5,768	5,769	5,765	5,760
医業収益	4,065	4,061	4,138	4,204	4,271	4,339
医業外収益	1,476	1,523	1,629	1,564	1,493	1,420
特別利益	54	1	1	1	1	1
費用合計	5,512	5,720	5,890	5,862	5,768	5,729
医業費用	5,151	5,399	5,574	5,554	5,446	5,395
医業外費用	325	296	292	284	297	310
特別損失	36	25	24	24	24	24
経常収支	64	△ 111	△ 99	△ 70	21	54
単年度損益	83	△ 135	△ 122	△ 93	△ 2	31
収益的資金収支	312	140	227	153	215	203

注) 項目ごとに四捨五入した金額としているため、合計が一致しない場合がある。

播多けんみん病院

第6期計画期間

(単位：百万円)

	H27 実績	H28 見込	H29 計画	H30 計画	H31 計画	H32 計画
収益合計	8,270	7,754	7,986	8,003	8,104	8,189
医業収益	6,370	6,118	6,234	6,333	6,434	6,537
医業外収益	1,689	1,635	1,751	1,669	1,669	1,651
特別利益	212	1	1	1	1	1
費用合計	8,698	8,043	8,199	8,218	8,262	8,302
医業費用	7,339	7,540	7,734	7,735	7,793	7,816
医業外費用	528	450	450	430	416	433
特別損失	831	53	53	53	53	53
経常収支	192	△ 237	△ 199	△ 163	△ 106	△ 61
単年度損益	△ 428	△ 289	△ 251	△ 215	△ 158	△ 113
収益的資金収支	466	86	86	147	145	107

注) 項目ごとに四捨五入した金額としているため、合計が一致しない場合がある。